

No. 42

メキシコ家畜衛生センター 技術協力実施協議調査報告書

昭和56年7月

国際協力事業団

登録
J.R.
81-50

RY

メキシコ家畜衛生センター
技術協力実施協議調査報告書

昭和56年7月

国際協力事業団

JICA LIBRARY



1052934[5]

國語文法	
給 '84. 3. 21	615
No. 01135	87.9
	ADL

あ い さ つ

国際協力事業団はメキシコ合衆国における家畜衛生センター技術協力計画のため、昭和56年3月30日から昭和56年4月17日までの間、農林水産省家畜衛生試験場製剤研究部長佐澤弘士氏を団長とする実施協議調査団を派遣した。

メキシコ合衆国政府は、家畜振興とその安定化政策を講じているが、ウィルス性疾病等各種伝染病が発生しており、これが発展の阻害要因となっている。1978年7月ドミニカ、ハイチ、更に1980年2月には隣国キューバでアフリカ豚コレラが発生し、緊急に防疫対策の確立が必要となったため、メキシコ合衆国政府は、1979年8月動物ウィルス病の防疫対策のための技術協力を日本に要請してきた。この要請に基づく事前調査の結果を踏まえ、今回実施協議調査が行われ、“家畜衛生センター技術協力討議々事録”の署名がなされた。

本報告書はR/D署名に至る経過、メキシコ政府関係者との協議経過、R/D等を報告しており、今後の事業推進に当り両国関係者の間で活用され、この計画が円滑かつ効果的に実施されることを願う次第である。

最後にこの調査の実施に際し、ご協力をいただいたメキシコ合衆国関係者及び調査団員各位のご苦勞に感謝するとともに、格別のご指導とご協力を頂いた在メキシコ日本大使館をはじめ、我国の関係機関に深甚なる謝意を表する次第である。

昭和56年7月

国際協力事業団

理事 松山良三



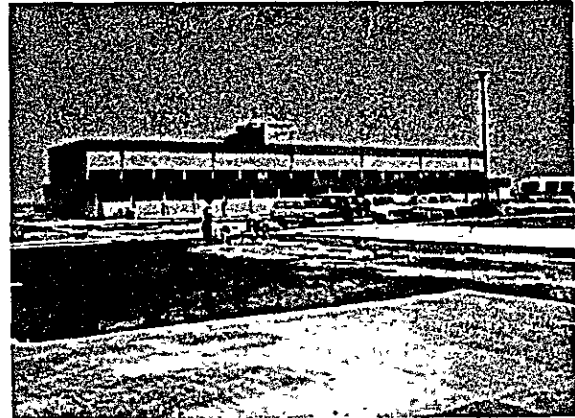
4月14日農業水資源省大臣室でR/Dにサイン交換をする Dr. Valdes 局長と佐澤団長



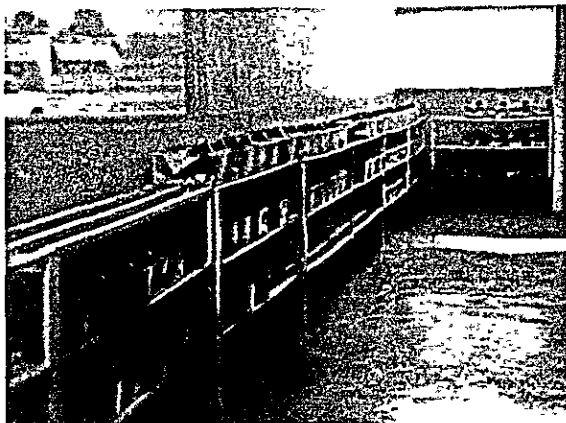
署名文の交換をやり握手する Dr. Valdes 局長と佐澤団長



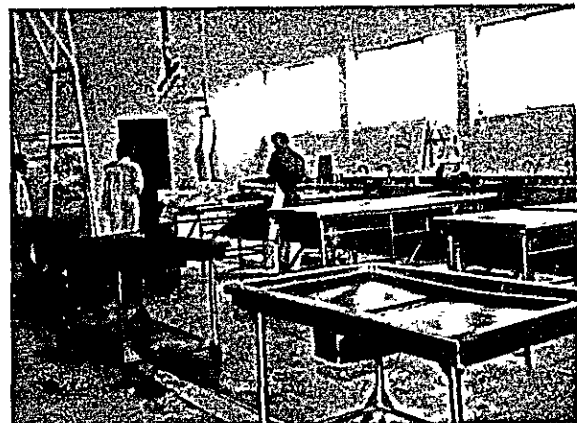
日墨両国の協力を確認しあい堅い握手を交す Dr. Fernandez 次官と遠藤公使



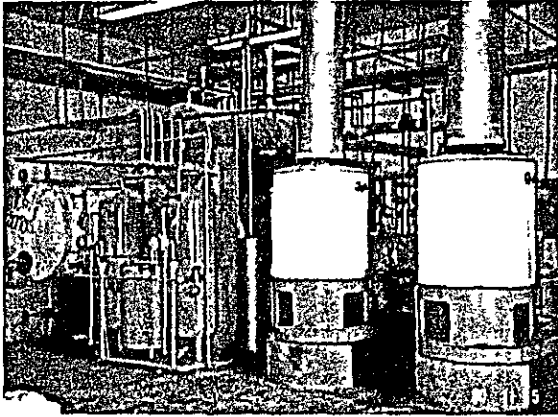
家畜衛生センターの実験動物棟全景



実験動物棟内のマウス飼育室



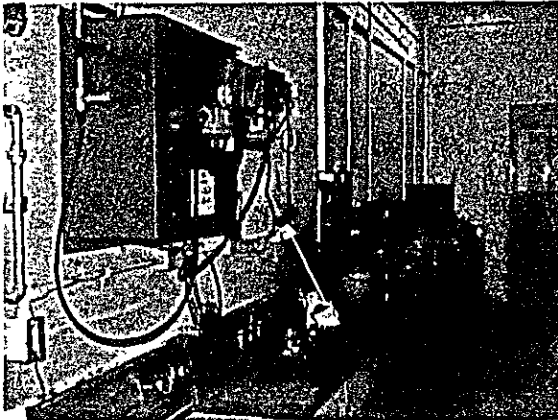
完備された病理解剖棟内部



亜性伝染病棟機械室内にある浄水装置
右よりボイラー2基 中間樹脂タンク2基と
塩水タンク1基 左端湯水タンク1基



センター所長 Dr. Arias の説明を受ける調査
団一行



実験室内にある純水製造装置



家畜衛生センター
Dr. Arias 所長と歓談する近常正輝専門家



血清研究室のスタッフと活動風景



調査団一行と派遣中の専門家(近常氏、鈴木嬢)

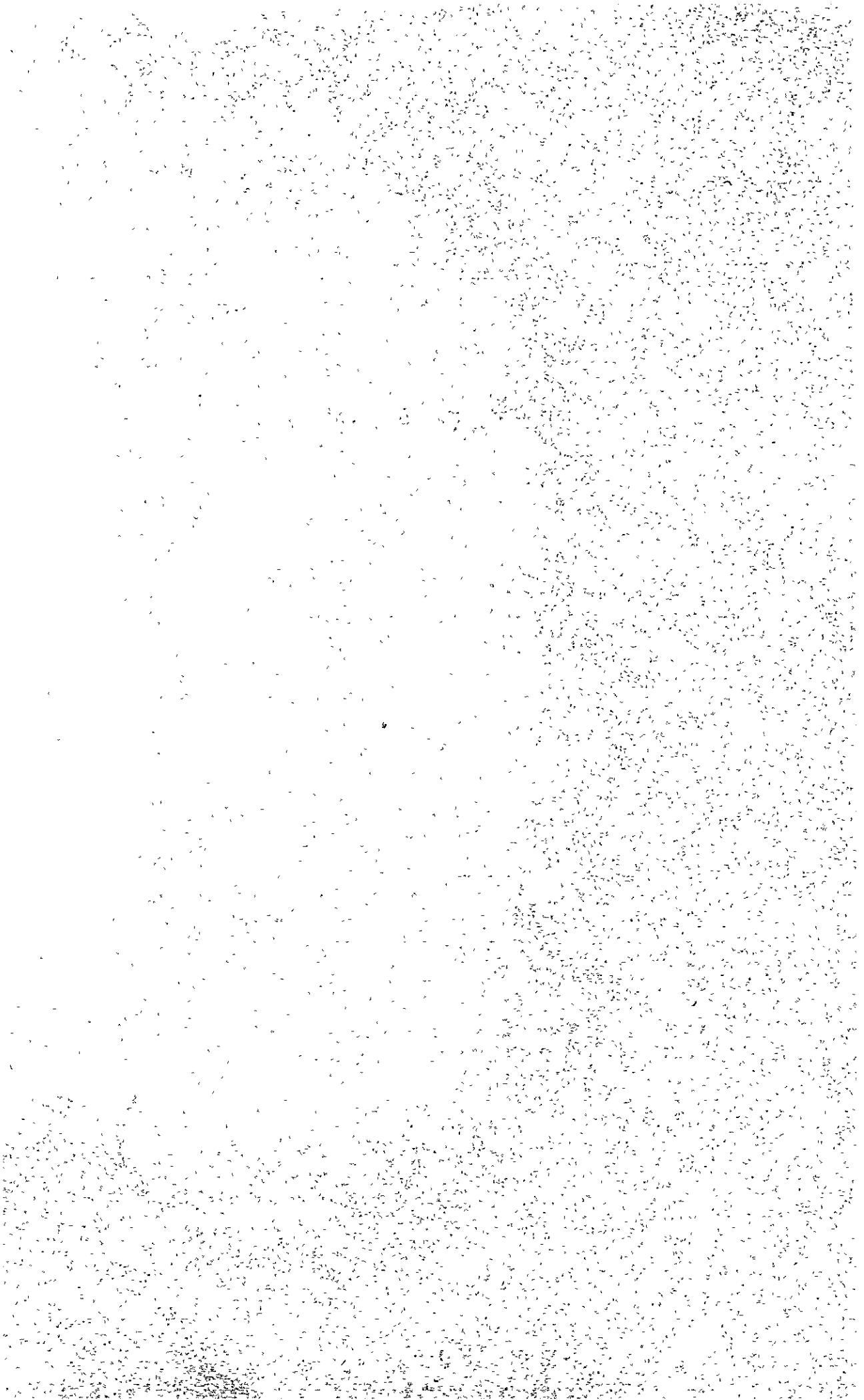
目 次

あ い さ つ

第1章 はじめに	1
1. 調査団の構成	6
2. 調査日程	6
3. 調査団の面会者	9
4. 事前調査後の経緯	10
第2章 メキシコでの会議記録	15
1. 日本大使館での会議	17
2. 家畜衛生局での会議	17
3. 第一回合同技術協力実施協議	18
4. 第二回合同技術協力実施協議	19
5. 技術協力実施協議々事録署名式	20
第3章 両国間の署名全文	23
1. 技術協力実施協議々事録	25
2. プロジェクトの実施計画	58
第4章 家畜衛生センターに関する補遺	67
1. 家畜衛生センターの概要	69
2. 家畜衛生センター保育スタム一覧	74
3. 検定基準(豚コレラワクチン)	77
4. 保有実験動物一覧	79
5. 病性鑑定診断様式	80
6. 図書目録	100
第5章 おわりに	113
参 考 資 料	119
1. 署名式に関する報道記事	121
2. 初年度必要機材一覧	123

3. 動物用医薬品一覧	124
4. 牧畜研究所図書目録	136
5. 畜産統計	147
入手資料	155
1. 生物製剤の検定基準	
2. メキシコ銀行年次報告(1980年)	

第1章 はじめに



第1章 はじめに

今回のメキシコ家畜衛生センター技術協力実施調査団の派遣に先立ち、メキシコ動物ウイルスセンター技術協力事前調査団が、国際協力事業団によって、昭和55年7月21日から8月10日までの3週間派遣され、メキシコで調査を行った。

そして、その調査報告の概要は、昭和55年12月に同事業団から発行された「メキシコ動物ウイルスセンター技術協力事前調査報告書」農計技JR80～83に記載されている。

この事前調査の報告を踏まえて、前向きにメキシコ動物ウイルスセンター技術協力プロジェクトを進める方向に沿って、外務省、農林水産省及び国際協力事業団の関係者による合同の各省会議が数次にわたって開催され、なるだけ早期にメキシコ政府との間で、技術協力が実施できるよう協議するため、調査団を派遣すべきであることが決められた。

しかし、メキシコ動物ウイルスセンター技術協力と云うプロジェクトは、事前調査報告書にも記載されてあるように、このプロジェクトを実施する適切な機関は、農業水資源省家畜衛生局調査研究部、すなわち家畜衛生センターであり、その機関での技術協力であれば、家畜衛生センターとしたほうが明確であると結論された。

なお、メキシコのわが国に対する技術協力の要請とわが国の実施協力範囲は、これまで通り豚コレラを中心にする家畜ウイルス病対応で、とくに豚コレラGPワクチンの製造技術に関する技術協力を最重点としていることに変更はなかった。

このようなことから、動物ウイルスセンターという名称は、今回の調査団派遣直前に、家畜衛生センターと改変されたのであるが、同じ内容で実施機関名を実状に合わせたためであることを御了承しておいていただきたい。

さて、今回のメキシコ家畜衛生センター技術協力実施調査団のメンバーは、同家畜衛生センターに昭和53年2月から3カ年間個別派遣専門家として出向し、昭和56年2月に帰国した原田熊幸、またメキシコの畜産の技術協力に昭和52年から3カ年間出向し、昭和55年4月に帰国した橋本敬次、先の事前調査団のメンバーであった佐澤弘士と栗城俊之助、さらに新しく畠山英夫を加え計5名であった。

原田と橋本の2名は調査団の先発として、このプロジェクトが実施された場合、早期に問題になると思われる事項である機材、図書、ウイルス株、細菌株、実験動物などについて、必要な資料を収集し、調査するため3月30日に成田を出発した。

さらに、彼らは各省会議で検討された日本側の骨子について、メキシコ側の実状を確認するとともに、関係当事者間との間で、細部に亘って問題点を浮き彫りにさせておくことであった。

佐澤、畠山及び栗城の3名は4月8日に成田を出発し、同日メキシコ空港に到着、メキシコ側バルデス局長ほか関係者、日本側メキシコJICA榎下所長及び近常、鈴木両専門家らの出迎え

をうけた。その後、直ちにホテルで調査団としての打合せを行ない、先発兩名からの報告と榎下所長のこれまでの経過をもとに、今後の日程とくにメキシコ側との全体会議についての方法と、実施協議書及び実施計画案作成について検討した。

これまで、メキシコは畜産の中でも養豚の振興に意欲を高めており、その増産計画をたてているが、近年近隣諸国でのアフリカ豚コレラの発生を憂慮し、この対策と豚コレラの国内発生の防圧を目指し、日本にこの面での技術協力の早期実現を望んできた。

さらに、メキシコは畜産国でありながら、家畜ウイルス病の研究が米国、英国、ヨーロッパ各国及び日本にくらべ立ち遅れており、ウイルス病の技術協力は、メキシコにとって非常にメリットのあるものと考えられた。

しかし、いっぽうではメキシコは米国に接しており、過去において口蹄疫、ベネゼラ脳炎などのウイルス病対策、ダニ対策など、米国の指導連繫のもとに推進され、その防圧に成功してきたところも多い。

さらに、現在なおいろいろな経済資金面での米国の影響力は強く、畜産分野においても種畜、飼料、動物用医薬品及び機械器具類、また研究用諸資機材などの面で、根強い実績のあることも見逃せない。しかも、メキシコは通常スペイン語が公用語であるといっても、英語との関係は少くとも日本より深いという点でも有利である。

このような考えにもまして、メキシコが家畜ウイルス病の技術協力をわが国に望んでいる理由は、わが国の家畜ウイルスの研究実績、とくに豚コレラについて高く評価していることともに、昭和52年の馬伝染性貧血に関して、清水武彦と甲野雄次のメキシコでの調査後、原田、鈴木及び近常ら専門家が派遣され、その真摯で有益な技術指導に、衷心からの信頼と敬愛を集めてきたからである。

いっぽう、来日して研修した家畜衛生局長バルデス博士、家畜衛生センター所長アリアス博士、国立動牛剤製造所次長フェルナンデス博士らすべてが、日本の家畜衛生の研究と技術を高く評価し、日本を手本として学ぶべきであるとし、日本に多くの友人をもつ親日家であることも、大きな要素となっている。

このようなことから、このプロジェクトの実施が進められると、技術協力はもちろんであるが、研究者、技術者及び指導的立場の人達の交流を重視し、人間的な友好関係をさらに高めていくことも大きな目標になってくる。

しかも、これまでの発展途上国に対する技術協力は、わが国の家畜衛生分野のレベルからみて、広い学問技術分野とくに研究機関の専門家より、行政機関の現場コンサルタント的専門家が適当である場合が多かった。

メキシコは獣医学教育や家畜の研究機関もかなり充実しており、とくにUNAM(国立自治)大学では、わが国獣医学教育にも決して劣らない施設や教授陣をもち、また家畜衛生に関連する

国際的な学会など、毎年のように開かれ、高いレベルにあるといえる。

そこで、このプロジェクトの専門家を派遣するとすれば、家畜ウイルス病の研究者とくに豚コレラと豚ウイルス病の専門家、ワクチン製造と検定の経験者を中心にしなければならないことになり、人選上非常に難しい。しかも、この人選を強行するのでもなければ、このプロジェクトは失敗に終ることになる。

もう一つの大きな問題は、メキシコ市における専門家の生活、とくに住宅難に関してと、高地における物価高とに対処し、少くとも日本より研究活動の基盤としての日常生活に不安があるようでは、専門家の善意と犠牲に頼る以外にない。

ここに、本プロジェクト実施協議調査団から、これらの点が解消されるよう、関係各省ならびに国際協力事業団関係者の理解と努力をお願いしておきたい。

今回の実施協議調査団とメキシコ政府関係者との全体会議は、4月10日及び4月13日の2日間行われたが、西サイドともお互を理解し合い、このプロジェクトを成功させようという雰囲気のみなぎっていた。しかし、より効果的により能率的にこのプロジェクトを実施するため、烈しい熱のこもった応しゅうが昼食を忘れて行われた。

とくに、日本側からは専門家に対する優遇措置、カウンターパートの配置、建物、給水工事、供与機材の受取り、メキシコ側からはプロジェクト実施開始日、協議書のスペイン語成文化、合同委員会の場所（東京）、機材供与、カウンターパートの日本研修などについて要望がなされた。

また、両会議において条文を一語ずつ検討し、適格な語を見出すまで数語について意見をかわり確認し合った。なお、添付文書については、大項目から小項目の見出し番号記載方法についても徹底的に調整した。さらに、家畜衛生センタープロジェクト実施計画案においても、協議書と同様検討し、ウイルス検出と分離とその他のウイルスワクチンについても、ウイルスとは豚・牛・家畜及びその他をいうこと、その他のウイルスワクチンとはオーエスキー、豚伝染性胃腸炎、牛鼻気管炎、牛ウイルス性下痢、マレックス及びその他のことというように、具体的に理解できるよう明記するようになった。

メキシコ家畜衛生センター技術協力実施協議議々事録（R/D）の原文の作成が、4月13日中に終り、4月14日に農業水資源省大臣室において日本側調査団長とメキシコ側家畜衛生局長との間で、署名式が行なわれることとなった。

この式には、メキシコ側の農業水資源省ルーベン・フェルナンデス次官と、日本大使館遠藤公使が立会うことが決まっていたが、メキシコ側は本プロジェクトに対して、大臣も大へん本プロジェクトに関心があり、ぜひ出席したいという申し入れがあった。

しかし、当日署名式の時間午後1時には所用で大臣の出席は不可能となった。次官から大臣に代って日本政府、日本大使館、及び調査団に対する感謝と、今後メキシコ政府が全面的協力をを行う旨の説明があった。

1. 調査団の構成

(業務)	(氏名)	(所 属)
(1) 団 長	佐 澤 弘 士	農林水産省 家畜衛生試験場 製剤研究部長
(2) ワクチン製造	島 山 英 夫	農林水産省 家畜衛生試験場 研究第二部 疫学研究室長
(3) ウィルス診断	原 田 熊 幸	千葉県血清研究所 主任研究員
(4) 協力企画	栗 城 俊之助	J I C A 農業開発協力部 畜産開発課 課長代理
(5) 業務調整	橋 本 敬 次	J I C A 農林水産計画調査部 農林水産技術課 特別嘱託

2. 調査日程

日 順	月 日	曜 日	行 程	事 項
1	3/30	月	成 田 → メキシコ JAL012	調査団員 原田、橋本 出発。 家畜衛生局長 Dr. Valdes , 次長 Dr. Jara JICA 榎下職員、近常、鈴木両専門家の出迎を受ける。 ホテルにて日程等の打合せ
2	3/31	火	日本大使館 JICA事務所 (午前) 家 畜 衛 生 局 (午後)	} 表敬と日程、業務の打合せ 局次長 Dr. Jara センター所長 Dr. Arias へ表敬及び日程の打合せ
3	4/1	水	J I C A 事 務 所	榎下所長 Dr. Arias と業務打合せ ① R/D日本側素案の提示 ② 調査事項の説明と協力要請 小野直樹氏(外務省経済協力局政策課)へプロジェクトの経過、概要を説明
4	4/2	木	家畜衛生センター	視察と業務打合せ ① 所長 Dr. Arias より施設計画、施設建設状況の説明と視察 ② 事前調査報告にある必要機材の説明と調整。

日 順	月 日	曜 日	行 程	事 項
5	4/3	金	家畜衛生センター	Dr. Arias 所長と共に作業(第1回) ① R/D案(英文、西文)の内容検討 ② 資料の収集
6	4/4	土	資 料 整 理	資料翻訳(メキシコの畜産状況等)
7	4/5	日	同 上	資料収集(物価等)
8	4/6	月	家畜衛生センター	Dr. Arias 所長と共に作業(第2回) ① R/D案の検討 ② 資料の収集
9	4/7	火	家畜衛生局 (午 前)	局長 Dr. Valdes, 次長 Dr. Jara, 所長 Dr. Arias, 総務部長 Ing Jose と業務打合せ ① R/Dの署名日時、場所、署名者について ② R/Dの協議日程等について
			JICA 事務所	大使館小川書記官 JICA 榎下所長と経過説明及び業務打合せ ① R/D内容の修正事項について(西文、英文) ② R/D署名日時、場所、出席者等について ③ 報道関係への連絡について
10	4/8	水	ホ テ ル (午 前)	Dr. Arias 所長と業務打合せ ① R/D草案のタイプについて ② R/D署名までのスケジュールについて ③ 不足資料の収集作成について
			JICA 事務所	榎下所長へ報告 ① 今後のスケジュールについて ② 団長への経過報告について
			成 田 → メキシコ JAL012	団長佐澤、団員眉山、栗城出発、到着
			ホ テ ル	ホテルで経過報告と日程の打合せ
11	4/9	木	日 本 大 使 館 JICA 事務所 (午 前)	} 表敬挨拶 ① 団長よりプロジェクト概要説明 ② プロジェクトの円滑な運営につき協力要請
			ホ テ ル	団員打合せ ① R/D案の内容の検討
			家 畜 衛 生 局 (午 後)	局長 Dr. Valdes を表敬 ① 会議日程の打合せ

日 順	月 日	曜 日	行 程	事 項
11	4/9	木	ホ テ ル (夜)	団員打合せ(近常専門家、榎下所長在席) ① R/D案につき検討、修正
12	4/10	金	家 畜 衛 生 局 (終 日)	R/Dの第1回会議 ① R/D案(英文、西文)の逐条審議 ② R/D原文のフォームについての調整
13	4/11	土	家畜衛生センター (終 日)	所長 Dr. Arids との打合せ ① 施設の視察(悪性伝染病棟、実験動物棟等) ② 建物及び給水の改善状況の聴取 ③ R/D案のタイプチェック作業と検討
14	4/12	日	資 料 整 理 (午 前) 部長 Dra. Concepcion 宅、メキシコ関係者との懇談 (午 後)	
15	4/13	月	日 本 大 使 館 家 畜 衛 生 局 (午 前) 局長主催晩さん会 (夜)	小林書記官とR/Dの挿入文の打合せ R/Dの第2回会議 ① R/D案(英文、西文)の逐条審議 ② プロジェクト5カ年計画(年次計画)の審議 ③ R/D署名式の打合せ 団員 5名 小川書記官、近常、鈴木両専門家、榎下所長の出席
16	4/14	火	農 業 水 資 源 省 大 臣 室 (終 日) 局長主催昼食会 (午 後)	次官 Dr. Fernandez 表敬 R/D署名式 次官 Dr. Fernandez, 局長 Dr. Valdes, 他プロジェクト関係者 遠藤公使、佐澤団長、他4名小川書記官 榎下所長、近常専門家、鈴木専門家 局長 Dr. Valdes, 他プロジェクト関係者(8名) 小川書記官、榎下JICA所長、近常専門家、鈴木専門家、 団員5名出席
17	4/15	水	日 本 大 使 館 J I C A 事 務 所 家 畜 衛 生 局	} 調査経過報告 ① 遠藤公使 ② 榎下所長 帰 国 挨拶 局長 Dr. Valdes

日 順	月 日	曜 日	行 程	事 事
18	4/16	木	PRONABIVE メ キ シ コ 発 JAL011	鼠山団員、鈴木専門家が訪問
19	4/17	金	成 田 着	

3. 訪問先および面会者

I SECRETARIA DE AGRICULTURA Y RECURSOS HIDRAULICOS

農林水資源省

1. - SUBSECRETARIA DE GANADERIA 牧畜副省

Dr. Rubén Fernández Gómez Subsecretaria de Ganaderia.
牧畜副省次官

2. - DIRECCION GENERAL DE SANIDAD ANIMAL 家畜衛生局

Dr. Oscar Valdes Ornelas Director General.
家畜衛生局長

Dr. Benjamin Jara Guillén Subdirector General.
家畜衛生局次長

Dr. Gustavo A. Rodríguez Heres Subdirector de Epizootiologia
疫学部長

Dr. Arturo Medina Figueres Subdirector de Servicios
Zoosanitarios.
衛生事業部長

Dr. Jacobo López Camero Subdirector de Programación
y Desarrollo Zoosanitario.
企画推進部長

Ing. José Luis Ortiz Jefe del Administrativo.
総務部長

3. - SUBDIRECCION DE REFERENCIA EN SALUD ANIMAL 家畜衛生センター

Dr. Jesús Arias Ibarro Subdirector 所長

Dra. Concepción Vilchis Melgarejo Jefe del Depto. de Alta Seguridad.

悪性伝染病部長

Dr. Alejandro Loyo Fernández Jefe del Depto. de Animal de Laboratorio
en el Bioterio. 実験動物室長

Dr. José Luis Delgado Aramburu Jefe del Depto. de Constatación
y Certitificación. 検定検査部長

Dr. Francisco Molina A. Investigador del Depto. de Alta Seguridad.

Dr. Jaime Arias I. “

Dr. Victor. M. Suzan. M. “

II PRODUCTORA NACIONAL DE BIOLOGICOS VETERINARIOS

国立動生剤製造所

Dr. Salvador Stanford Valera Director General. 所長

Dr. Luis A. Fernández Zorrilla Subdirector General. 次長

III DIRECCION GENERAL DE ECONOMIA AGRICOLA 農業経済局

Lic Hugo Moreno Arcos —

IV EMBASSY OF JAPAN 在メキシコ日本大使館

Mr. Tetsuya Endo 遠藤哲也（公使）

Mr. Hideaki Kobayashi 小林秀明（一等書記官）

Mr. Mitsumasa Ogawa 小川光政（二等書記官）

V JAPANESE EXPERTS 日本人専門家

Mr. Masateru Chikatsune 近常正輝

Dra Taeko Suzuki 鈴木妙子

VI JICA MEXICO OFFICE 在メキシコ国際協力事業団事務所

Mr. Akio Suzuki 鈴木昭夫（前所長）

Mr. Nobutetsu Enoshita 榎下信徹（所長）

4. 事前調査後の経緯

昭和55年10月4日付外務公電第1350号でメキシコ動物ウイルス技術協力計画の早期開始につき、メキシコ政府より要請がなされた。

昭和55年7月実施された事前調査の報告等から、日本側もこれに前向きに取り組む意向が出され昭和55予算年度内の実施協議調査団派遣の為に次の様な会議が開催された。

1. 農林水産省会議

日 時 昭和55年10月17日
場 所 農林水産省、経済局第2会議室
出席者 (国協課)為季課長補佐、南技官、富田技官、(技術会議)山本課長補佐、
(衛生課)今井班長、林技官、永田技官、(畜政課)西村技官、(家畜衛生
試験場)清水豚コレラ室長 (JICA)板橋課長 栗城、河合
議 題 R/Dの年度内締結に係る農林水産省サイドの対応について
討議内容

- (1) プロジェクト(案)。豚コレラワクチンの試作検定技術、ウイルス病の診断技術の確立を内容とする。協力期間5ケ年は妥当である。
 - (2) 派遣専門家 計画初年次に派遣が必要とされる専門家は3~4名(診断 ワクチン試作の為の基礎技術)。次年次以降は5名(ワクチン試作と検定加える)及び業務調査員1名。これらの対応は個別派遣中の専門家(2名)を加えた場合可能である。
 - (3) 豚コレラGPワクチン株の分与について 国際特許がない為、メキシコ国を通じアメリカ国へ流れ、ワクチンが日本へ逆輸入される可能性、対応策について検討された。これは技術協力実施上の基本的問題に係るため、実施協議調査団出発までに農林水産省サイドで検討し結論を出す。
 - (4) 調査団、技術協力に係る予算措置。 昭和55年度内R/D調査団旅費、昭和56年度専門家派遣経費、機材供与費、研修員受入経費については、調整は可能である。
- 結 論 農林水産省側の対応に(3)を除き問題はなく、55予算年度内の実施協議調査団派遣は可能である。

2. 各省会議

日 時 昭和55年12月9日
場 所 外務省 会議室250-D
出席者 (外務省技2課)池田事務官、榎事務官 (国協課)吉永技官、(畜政課)
西村技官、(衛生課)永田技官、(家畜衛生試験場)佐澤製剤研究部長、
(JICA)板橋課長、栗城、河合
議 題 メキシコ動物ウイルスセンター技術協力の実施協議調査団の派遣について
討議内容

- (1) 事前調査の報告内容やメキシコ側の計画に対する対応、希望から判断して、熟度も高く、緊急性も認められ、早期着手が望ましい。
- (2) 協力計画の骨子は次の通りとする。
 - イ 協力期間5ケ年
 - ロ 豚コレラGPワクチンの製造技術の確立。ワクチン検定技術の確立。豚コレラ、

アフリカ豚コレラの診断技術の確立。その他重要ウイルス病の診断技術の確立。

ハ 協力対象機関は家畜衛生局、家畜衛生センター

ニ 派遣専門家 長期 5～6名、短期 3～4名/年間

ホ 研修員受入、高級、一般含め 3～4名/年間

(3) 実施協議調査団の派遣は、期間 15日位で団員構成は 4名位とする。赴任中の個別専門家原田熊幸氏を現地参加させる。

(4) GPワクチン株の分与については、農林水省家畜衛生試験場で検討の結果、GP株には特許がなく、製造技術に国内特許がある。株分与は東南アジア諸国への実例もありGGベースの株分与に問題はない。日本には薬事法があり製品の日本への逆輸入に対しての制限も可能である。ただしメキシコでの民間や第3国への株分与については、なんらかの制限を付すのがベターと考えられる。具体的案につき家畜衛生試験場を中心に更に検討する。

(5) 協力実施に当り問題点とされる水質改善、ワクチン試作用施設の建設計画について、メキシコ側の対策、計画を照会し、資料の入手が必要である。

結 論 年度内調査団派遣の方向で、予算の手当、R/Dマスタープラン案作成等の作業を進める。

3. 各省会議

日 時 昭和56年3月5日

場 所 外務省 会議室 857

出席者 (外務省)池田事務官、川口事務官、(国協課)吉永技官、(畜政課)西村技官、(衛生課)永田技官、(技術会議)山本課長補佐、(家畜試)佐澤部長(千葉血清所)原田研究員、(JICA)板橋課長、橋本特別囑託、栗城

議 題 実施協議調査団派遣について

討議内容と結論

(1) R/D案について内容検討を行う。

(2) 派遣日程 56年3月30日～4月17日(19日間)

(3) 団員 5名とする。2名は3月30日出発とし、団長他2名は4月8日後発とする。

(4) 協力開始日 調査団派遣中にR/Dへ署名するが、R/Dの発効日は、専門家派遣の見通し等より昭和56年6月1日とする案を提案する。

(5) R/Dの期間5ケ年の中間(3年目)に中間エバを実施する旨を明記する。

(6) プロジェクトの名称を“メキシコ家畜衛生センター技術協力”とする。

4. 実施協議調査団打合せ

日 時 昭和56年3月20日

場 所 J I C A、農業開発協力部会議室

出席者 (外務省)川口事務官

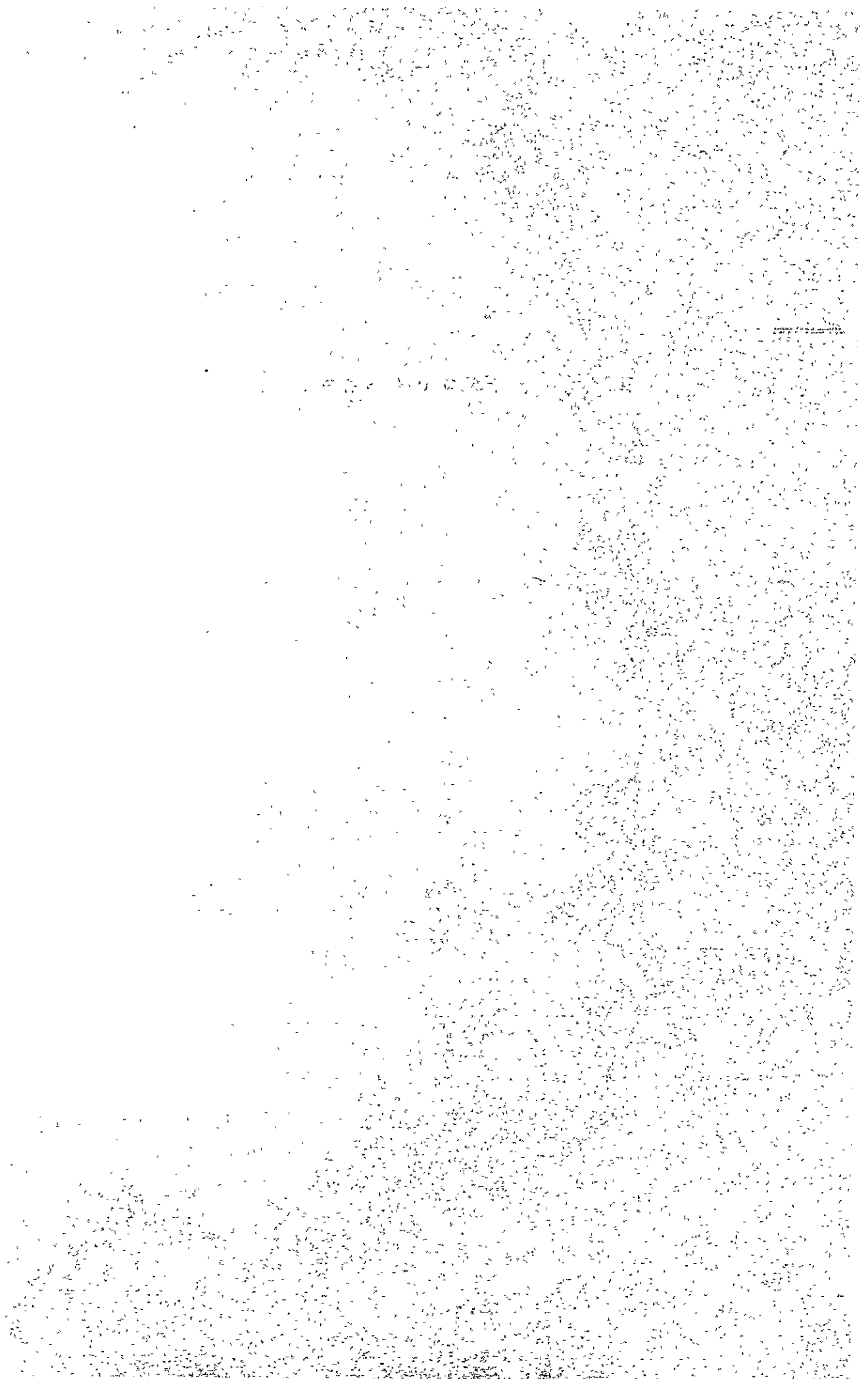
(団員)佐澤団長、島山、原田、橋本、栗城、各団員

(J I C A)板橋課長

打合せ事項

- (1) R/D案内容の検討
- (2) 調査項目の検討と決定。
- (3) Tentative Schedule の内容の検討。

第2章 メキシコでの会議記録



第2章 メキシコでの会議記録

1. 日本大使館での会議

佐澤団長着墨の翌日4月9日午前10時に、調査団全員5名は大使館を表敬した。遠藤公使へ調査団の訪墨目的、プロジェクトの概要を説明すると共に、大使館の協力を要望した。

イ R/Dは5ヶ年間の協力期間とし、昭和56年6月1日を開始日とする案である。

ロ テカマックの家畜衛生センターにおけるワクチン製造、検定技術、重要ウイルス病の診断技術の確立を行う。

ハ 専門家は5～6名の派遣となる。

ニ プロジェクト開始に当り、課題となっている問題は、メキシコ側負担で建設予定の施設の早期建設、水質の改善である。よくメキシコ側と協議してゆきたい。

ホ 派遣専門家の待遇改善が強く要望される。メキシコのインフレは激しく、特に住宅手当はJICA基準では大巾に不足する見通しであり、改善方につき大使館のご協力をお願いする。遠藤公使より次の様な発言があった。

イ 外務公務員の在勤手当が昭和56年4月1日より改訂されかなりアップされる。

専門家の在勤手当も改訂されるようになるのではないか。

ロ 大使館員も住宅費は自己持ち出ししているのが現状である。日本では財政再建もあり難しい問題と思うが、改善方につき努力したい。

ハ 本プロジェクトへのメキシコ側の期待は大きい。立派なR/Dが作成され、技術協力計画が成功することを望む。

ニ 報道機関を通じてPRする良い機会であるので協力願いたい。

同席者：小川書記官、近常専門家、鈴木専門家、榎下所長。

2. 家畜衛生局での会議

調査団5名は4月9日午後6時に家畜衛生局を訪問した。Valdes局長より、調査団の来墨を感謝し、また日本大使館、JICA事務所の協力への謝辞が述べられた。

本計画に対するメキシコ側当局者の関心が高く、牧畜副省 Dr. Fernandez 次官よりも、調査団への協力に万全を期すよう指示されている旨述べられた。

佐澤団長より、事前調査で約束したことが実現できて嬉しい。メキシコ関係者の協力を得て、R/Dを結び両国の協力をより一段と強化し、家畜伝染病の撲滅に向って斗ってゆきたいとの挨拶がおこなわれた。

イ R/Dは西文、英文を作成し、両方それぞれをオリジナルとする。

ロ R/Dはメキシコ側、日本側両者の話し合いで作成される。会議ではフランクにかつ充分

な討議を行ない互に署名できるよう全力を尽したい。

ハ R/Dの署名者は、Dr. Valdes 局長と佐澤団長が行なう。Dr. Fernandez 次官が立合人としてサインする。

ニ 今後の日程

が、話し合いの結果了解された。

同席者は、Dr. Jara 次長、Dr. Jacob 企画部長、Dr. Rodriguez 疫学部長、Dr. Arias 所長、近常専門家、鈴木専門家、榎下所長。

3. 第1回合同技術協力実施協議

4月10日、午前10時より家畜衛生局において、R/D案につき逐条審議を実施した。

出席者。(メキシコ側)

Dr. Valdes 局長、Dr. Jara 次長、Dr. Arias 所長、Dr. Rodriguez 疫学部長、Dr. Medina 衛生部長、Dr. Lopez 企画部長、農業経済局 Lic. Moreno 担当官、Dr. Fernandez 国立動生剤製造所次長

(日本側)

佐澤団長、団員4名、近常専門家、鈴木専門家、榎下 JICA 所長

1. R/D正文については、メキシコ側の公式文書は全て西文であるとの理由から、西文をメキシコ側オリジナルとし、英文は日本側のオリジナルとすることで合意した。
2. R/D(英文、西文)につき、各項ごとに読み上げながら、討議と字句、句読点等の修正を行なった。中で特に議論された事項は次の通りである。

イ メキシコ側からR/Dは英文、西文で作成し、その両方が同一内容である旨の記載をすべきであると提案された。

日本側も同意し、英文については、日本大使館、小林書記官の指導を得て、R/D文に“Written in English and Spanish both of which are equally valid in Mexico City,”を挿入することとした。

ロ プロジェクト名につき修正をした。

“Mexican Animal Health Center”は次に in the United Mexican States が続く文章であり Mexican は削除して、“Animal Health Center”とすることとした。

ハ The Attached Document 文中での議論点はⅡ, 2. (c)項中の“sale tax”で、メキシコ側は、1981年1月大統領令によるI.V.A.(附加価値税……事前調査報告書参照)に相当し、免税特権を賦与する約束は不可能であり削除してほしい旨の提案があった。具体的には車の購入の場合が、これに係る例と考えられ、車を日本やアメリカから輸入す

る場合の import tax , import sales tax の免税については家畜衛生局が責任をもって申請する旨を表明された。

なお書類の流れは家畜衛生局→農業経済局→メキシコ外務省→在メキシコ日本大使館となる。

調査団は、ブレイクを取り検討したが、sale tax はメキシコ国内での販売に係る課税であり、I.V.A の対照となる。I.V.A の免除措置は外交官でも認められていない事から、メキシコ側の意向に添うのがよいと結論を出し、結果メキシコ側提案に同意することとした。

なお、“C” 項の他の免税が不可能の場合は、家畜衛生局が、車を提供することもできるという約束になった。

また56年4台の乗用車を家畜衛生センター予算で購入するが、内2台は日本人専門家用に提供できる余裕があるとの発言もあった。

ニ VI , 1 , (4)項の住居問題については、メキシコ政府には制度として予算がなく、専門家個々の要望も多岐にわたり実現が全く困難であり、削除してほしい希望が出された。

調査団は日本が実施する技術協力の基本的考え方であり、削除はできない。メキシコ側が実行不可能であれば、要請書(A1-Form)で不可能の旨明記できる。メキシコ政府が負担できない場合は、日本政府が住民手当を支給する制度がある。

専門家の住宅問題については、メキシコ側関係者によく理解してもらい、住宅斡旋等についてはメキシコ関係者が協力すること、の約束が交され良く了解された。

ホ VI , 2 , (2)項の供与機材の引取りに係る税免除について、I.V.A の免除は不可能であるので家畜衛生局が責任をもって本税金を負担し、機材を引取る旨の約束がなされた。

調査団は本件を明文化して置くことを検討したが、家畜衛生局を信頼し、従来の個別派遣専門家に係る機材の引取り実績から見て問題はないと考えられたので、その必要性を認めないと結論した。

ニ X 項の Joint Committee の役割についてメキシコ側から、VII 項の Joint Committee との相異点について質問があった。

調査団は、X 項の Joint Committee は実質中間エバリエーションであり、日本から調査団の派遣をすることとなる旨説明し、当初案では、VII 項と X 項の Joint Committee の役割に曖昧さがあったのでこれを訂正し “ there will be a general review by the Japanese Evaluation Team together with the Joint Committee ” とした。

4. 第二回合同技術協力実施協議

4月13日午前9時半より、家畜衛生局において、前回に討議した事項の修正確認を行なっ

た。また Tentative Schedule の素案の審議を行なった。

出席者 (メキシコ側)

Dr. Valdes 局長, Dr. Lopez 企画部長, Dr. Arias 所長, Dr. Fernandez

国立動生剤製造所次長

(日本側)

佐澤団長、団員4名、近常専門家、鈴木専門家、榎下 J I C A 所長

イ R/D 素案について、協議内容を再審議し、原文作成のための作業を行なった。

ロ Tentative Schedule について、日本側専門家派遣の見通し、予算上の制約等を考慮すると共に、メキシコ側カウンターパートの確保の見通し、施設建設の見通し、予算確保、及び家畜衛生防疫キャンペーン計画との関連等について原文が作成された。

ハ R/D 署名式に係る打合せについて

日 時 4月14日午後1時より

場 所 農業水資源省 大臣室

署名者 メキシコ側、Dr. Oscar Valdes Ornelas 家畜衛生局長

日本側、佐澤弘士調査団団長

出席者 Dr. Ruben Fernandez Gomes 次官、遠藤哲也公使、他関係者

5. 技術協力実施討議々事録署名式

4月14日正后、団長他団員4名、榎下 J I C A 所長、近常、鈴木両専門家は、農業水資源省に Dr. Fernandez 次官を訪ねた。

次官会議室において、佐澤団長より訪暎の目的を述べた後、Dr. Valdes 局長より家畜衛生センター技術協力の内容と R/D 締結までの経緯概要の説明がなされた。

Dr. Fernandez 次官より "家畜衛生分野における過去3ヶ年間の日本、メキシコ両国関係者の協力が大きな実績を収めていることを感謝している。日本の組織力の強く立派な点は、メキシコの見習う点であり、今後の協力を通じて学んでゆきたい。メキシコは家畜伝染病キャンペーンを強力に進めており、その効果もあげつつある。FMD はアメリカの協力で成果を得た。その他の疾病についても近く効果があがり撲滅が期待されているものもいくつかある。今回の技術協力計画が締結されることにより、日本の優秀な技術の協力を得て、伝染病撲滅が早く達成できるものと期待している。これはメキシコ国の為だけでなく全世界の利益になるものであり素晴らしい計画である。佐澤団長初め、日本大使館、J I C A 及び日本の関係機関の方々に深く感謝申し上げます" と述べられた。

午後1時より、大官室において、Dr. Fernandez 次官、遠藤公使の臨席を得て、R/D の署名式が挙行された。

初めに出席者一人一人の紹介が行なわれ家畜衛生局 Dr. Valdes 局長、佐澤団長、農林水資源省 Dr. Fernandez 次官、遠藤公使それぞれより挨拶が述べられた後メキシコ側 Dr. Valdes 家畜衛生局長、日本側佐澤団長による署名が交され、非常に友好的雰囲気の中にも、厳粛に署名がとり行なわれた。

イ Dr. Valdes 局長挨拶要旨

過去数年にわたって、メキシコと日本の畜産関係者の中で、家畜衛生対策に係る技術協力計画について検討されてきたが、本日この署名式が行われることは大変よろこばしい。メキシコ国における畜産は、非常に重要な産業である。畜産物の増産は家畜衛生対策があって成立するもので、現在メキシコ国では 200ヶ所の家畜衛生診断所で約 2,000 人の獣医師が大事な任務に当たっている。今後、日本の協力、特に豚コレラの撲滅対策、その他重要ウイルス病対策は大きな期待が持たれる。

日本の技術協力によって日墨の友好関係が深まり強くなることと考える。これから結ばれる技術協力は、メキシコの希望事項が多く記載されており深く感謝する。

ロ 佐澤団長挨拶要旨

本席で日本側を代表して挨拶できることは非常に光栄である。特に本席には、メキシコ側関係部局の最高責任者がご出席されているとお聞きし、生涯忘れ得ない喜びである。私はメキシコ国は古い文化を持ち新しい発展に全国民が参加している素晴らしい国であると考えている。今回両国が家畜衛生とくに動物ウイルス病で技術協力をしてゆくこととなった。伝染病については、私達の先輩である野口英世博士が約 60 年前にメリダ市の大学で熱帯病の研究をしている。彼は一人で研究をしたが、これからの伝染病撲滅は全て組織で行うようになってきている。メキシコ国農業の中で重要な畜産における家畜ウイルス病を中心にメキシコの専門家の皆様と一諸に共通の適である豚コレラ、オーエスキー病、TGE 等徹底的に、かつ速やかに制圧してゆきたいと考える。両国民がこのプロジェクトを通じて、心から仲良くなり、これが永く永く友好と親善に役立つことを願って止まない。

ハ Dr. Fernandez 次官挨拶要旨

農業水資源省大臣が出席予定であったが急用で出席できないため代って挨拶申し上げる。メキシコ政府は日本の技術協力を得て食糧増産を目指している。本技術協力計画が、メキシコに大きな貢献をするものと考えている。メキシコの食糧問題は大きく非常に難しいものと考えている。例えばメキシコの人口増加率は 2.9% であり畜産物は不足し増産が必要である。牛乳も不足している。

過去畜産業における損耗は 30% に達するとみられている。1985 年までには家畜衛生対策等により 15% までに減少させたい。この意味からも今日署名される両国の技術協力計画に期待するところが大きく協力関係が結ばれることを喜んでいる。

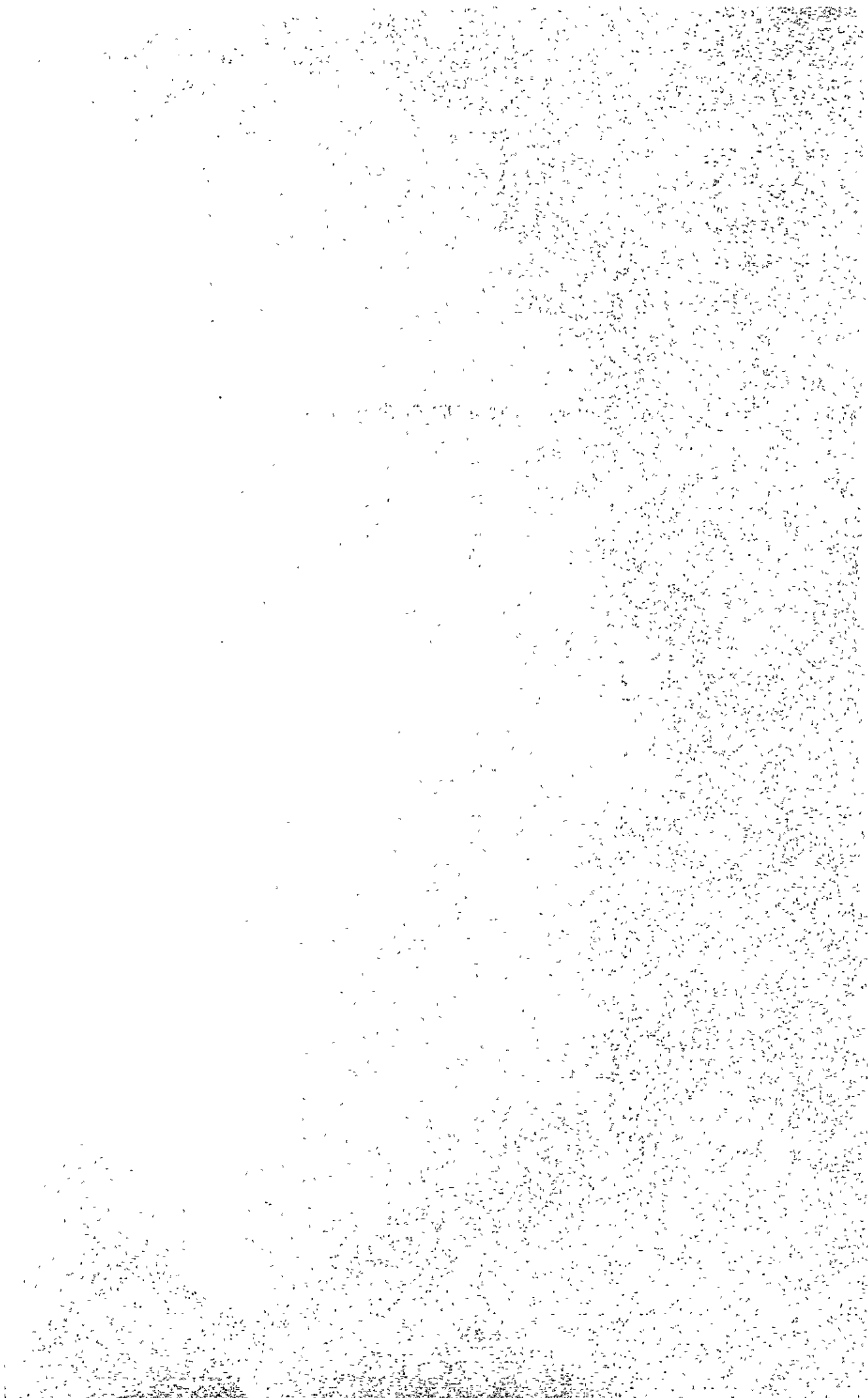
ニ 遠藤公使挨拶要旨

近年日墨関係は深まってきている。大平洋は両国を隔てるものではなく、両国を結びつける湖である。日本はメキシコを必要とし、メキシコもまた日本を必要としている。家畜衛生分野で協力できることは両国にとって大切なことである。日本国政府はこの技術協力計画に関して最大限の協力を惜しまない。技術協力計画の実施に当り両国技術者がお互に協力し本計画が成功することを祈る次第である。両国政府の友好、親善が更に深まることを願うものである。

署名式には家畜衛生センター所長 Dr. Arids , 国立動生剤製造所長 Dr. Stanford , 同次長 Dr. Fernandez 。日本大使館小川書記官、近常専門家、鈴木専門家、及び JICA 榎下所長も臨席した。

また本署名式の模様はメキシコ国の報道機関（テレビ、新聞）により取材され翌日報道された。（新聞記事参照）

第 3 章 両国間の署名全文



第 3 章 両国間の署名全文

1. 技術協力実施討議討議々事録

メキシコ家畜衛生センター技術協力計画 R/D 仮訳

メキシコ家畜衛生センター技術協力計画のための日本側実施協議チームとメキシコ合衆国政府関係当局との討議々事録

国際協力事業団（以下“JICA”と云う）が組織し、佐澤弘士博士を団長とする日本側実施協議チーム（以下“チーム”と云う）は、メキシコ合衆国における家畜衛生センター計画について技術協力計画の詳細を策定するため、1981年3月30日より1981年4月16日までの日程で、メキシコ合衆国を訪問した。

メキシコ合衆国滞在期間中、チームはメキシコ合衆国関係当局と上記計画の有効な実施のため、両国政府がとるべき必要な措置に関して意見を交換、さらに一連の討議を行った。

討議の結果、チームとメキシコ合衆国関係当局は、1981年4月14日メキシコ市において、同一内容とする英語文、西語文で正文化された文書に、記載された諸事項を、それぞれの政府に対して勧告することに同意した。

署 名	署 名
佐 澤 弘 士 日本側実施協議チーム団長	オスカル、ヴァルデス、オルネラス メキシコ側農業水資源省、牧畜副省 家畜衛生局長

3

附 属 文 書

I 両国政府の協力

1. 日本国政府とメキシコ合衆国政府は、メキシコ合衆国における家畜衛生の改善を図り、もって畜産振興に貢献することを目的として家畜衛生センター[※]技術協力計画（以下“プロジェクト”と云う）を相互に協力して実施する。
2. 当該計画は附表Ⅰのマスタープランに従って実施される。

※西文名 Subairecoian de Raferencia en Salud Animal.

II 日本人専門家の派遣及び特権、免除、便宜

1. 日本国において施行されている法律及び規則に従い、日本国政府は技術協力の方式に基づいた通常の手続により、自己の負担において附表Ⅱに掲げる日本人専門家の役務を提供するため、JICAを通じ必要な措置をとる。
2. メキシコ合衆国において日本人専門家及びその家族に対して、メキシコ合衆国政府が与える特権、免除及び便宜は同様な役務を遂行している第3国又は国際機関派遣専門家に対して与えられているものより不利でないものとし、次の事項を含む。
 - (1) 海外から送金される生活手当に対して、又はそれに関連して課せられる所得税及びいかなる種類の課徴金の免除
 - (2) メキシコ合衆国内に搬入される個人的、家庭用品類、各専門家各1台の自動車を含むに課せられる輸出入税及びいかなる種類の免除
 - (3) メキシコ合衆国内で日本人専門家による各自1台の自動車の購入に対して、又は関連して課せられる輸入税、輸入販売税その他の税並びにいかなる種類の課徴金の免除
 - (4) 日本人専門家及びその家族に対する無料医療サービス及び施設の利用
 - (5) 日本人専門家及びその家族が任務遂行上必要とするメキシコ合衆国関係当局への協力者としての日本人専門家に対して身分証明証を発給すること。

III 機材供与

1. 日本において施行されている法律及び規則に従い、日本国政府は日本の技術協力の方式に基づく通常の手続きにより附表Ⅲに掲げる当該プロジェクト実施に必要な資機材を自己の負担において供与するため、JICAを通じ必要な措置をとる。
2. 上記1項にいう機材は陸揚港又は空港にてメキシコ側当局へ c. i. f 建てにて引渡される時、メキシコ合衆国政府の財産となる。そしてそれは附表Ⅱに掲げる日本人専門家との協議をもって当該計画実施のためにのみ使用される。

IV 研修員受入

1. 日本国において施行されている法律及び規則に従い、日本国政府は日本の技術協力の方

式に基づく通常の手続により、当該計画に携わるメキシコ政府職員を自己の負担において受入れ、技術研修を行うため JICA を通じて必要な措置をとる

2. メキシコ合衆国政府はメキシコ政府職員が日本における技術研修から得た知識及び経験が当該計画実施のために有効に用えられることを確実にするために、必要な措置をとる。

V メキシコの専門家及び職員への役務

1. メキシコ合衆国の現行の法律及びその他の職員の役務を確保するため自己の負担において必要な措置をとる。
2. メキシコの専門家に関しメキシコ合衆国政府は、当該計画の技術移転を効果的かつ成功裡に遂行するために、附表Ⅱに記す日本政府が派遣する日本の各専門家に対応する適格な専門家及び職員を必要人数配置することに努める。

VI メキシコ合衆国政府がとるべき措置

1. メキシコ合衆国において施行されている法律及び規則に従って、メキシコ合衆国政府は自己の負担において、次のものを提供するために必要な措置をとる。
 - (1) 附表Ⅴに掲げる建物及び附属設備
 - (2) 上記Ⅲに基づき JICA を通じて供与される機材を除いて、当該計画実施のために必要な機材、設備、器具、動物、車輛、用具、予備部品及びその他の資材。
 - (3) メキシコ合衆国内での日本人専門家の公用旅行のための便宜及び旅費。
 - (4) 日本人専門家及びその家族に対する適当な家具付住宅施設。
2. メキシコ合衆国において施行されている法律及び規則に従って、メキシコ合衆国政府は次に対応する必要な措置をとる。
 - (1) 上記Ⅲに掲げる機材のメキシコ合衆国内における輸送、据付、操作及び維持に必要な経費。
 - (2) 上記Ⅲに掲げる機材のメキシコ合衆国内で課税される関税、国内税及びその他の課徴金。
 - (3) 当該計画実施に必要なすべての運営経費

VII 計画の運営管理

1. 家畜衛生局長は計画の運営及び管理に責任を負い、日本の専門家は計画実施のために必要な技術上の指導及び助言を与える。
2. 計画を円滑に推進し効果的に実施させるために、日本の専門家及びメキシコ合衆国政府関係者は、緊密に協議するものとし、この目的で附表Ⅵに掲げる合同委員会を設置する。

VIII 日本の専門家に対する請求

メキシコ合衆国政府は、日本の専門家のメキシコ合衆国内における職務の遂行に起因し、又はその遂行中に発生する日本の専門家への請求が生じた場合には、その請求に関する責任

を負う。但し日本の専門家の故意または、重大な過失により生ずる責任についてはこの限りではない。

IX 相互協議

両国政府はこの討議々事録から生じ、又はこれに関連した事項につき必要に応じ相互に協議を行う。

X 協力期間

この討議々録による当該計画の技術協力期間は1981年6月1日より5ケ年間とする。しかし当該計画開始から3ケ年後、両国政府が本協力を更に2ケ年継続すべきか否かの決定に資することも勘案しメキシコ市において合同委員会も含めた日本側エバリエーションチームによる当該計画の実施進捗状況に関する全般的検討を行う。

附表I マスタープラン

本計画は次の事業内容をテカマック市の家畜衛生センターにおいて実行される。

1. 豚コレラG.Pワクチンの試作製造技術及びワクチン検定技術の確立。
2. 豚コレラ、アフリカ豚コレラの診断技術の確立及び重要なウィルス疾病の診断技術の指導助言。
3. 家畜衛生センター及び関連機関における家畜衛生技術者に対して上記1.2項に関する技術指導。

附表II 日本の専門家

(専門家の職別)	(分 野)
1. チームリーダー	ワクチン製造
2. 専 門 家	ワクチン検定 ウィルス病診断
3. 業務調整員	

備考：(1) 上記リストの専門家の中より1名をチームリーダーに指名する。

(2) 必要に応じて疫学、実験動物、電子顕微鏡及びその他の分野に短期専門家が派遣される。

附表Ⅲ 供与機材

1. 豚コレラ G.P ワクチンの試作製造及び検定のために必要な資機材並びにスペアパーツ。
2. ウィルス疾病の診断に必要な資機材並びにスペアパーツ。
3. ワクチン株。
4. 動生剤並びに消毒薬を含む医薬品。
5. 車輛。
6. その他必要な資機材。

附表Ⅳ メキシコの専門家及びその他の職員

(専 門 家 の 職 別)	(分 野)	(所 属 機 関)
1. プロジェクトディレクター		家畜衛生センター
2. 技 術 者	ワクチン製造	家畜衛生センター
	ワクチン検定	国立動生剤製造所
		同 上
	家畜ウィルス学	家畜衛生センター
	疫 学	同 上
	実 験 動 物	同 上
	電 子 顕 微 鏡	同 上

3. 事務職員，業務員

4. 労 務 者

備考：少なくとも3名のカウンターパートが上記2の分野にそれぞれ配置される。

附表Ⅴ 建物及び附帯施設

テカマック市の家畜衛生センターにおける下記の施設

1. 本館（事務室，会議室，図書室，その他）
2. 生物学試験研究棟
3. 悪性伝染病部棟
4. 検定検査部棟
5. 実験動物棟

6. 解剖施設
7. 診断部施設
8. 研修施設及び研修寮
9. 動物検疫施設
10. その他必要な附帯施設

附表Ⅵ 合同委員会

1. 機 能

下記 2 に掲げる構成による合同委員会を少なくとも年 1 回は開催し、その仕事は

- 1) 事業の基本計画に基づく実施計画案の進捗状況の総合的検討。
- 2) 日本政府によってとられた措置の検討
 - (1) 日本の専門家の派遣
 - (2) メキシコの専門家の日本への研修受入
 - (3) 機材の供与
- 3) メキシコ合衆国政府によってとられた措置の検討
 - (1) 必要な予算措置（ローカルコストを含む）
 - (2) 必要なカウンターパートの配置
 - (3) 日本国政府により供与された機材の利用
- 4) 当該計画の年間実施計画の作成
- 5) 両国政府に対し、とくに下記事項につき勧告する。
 - (1) 予算事項
 - (2) メキシコの専門家の人選と任命
 - (3) 機材の選定と効果的利用
 - (4) 日本の専門家の適切な派遣
 - (5) メキシコの専門家の日本への研修受入
 - (6) その他

2. 構 成

- 1) 委 員 長 農業水資源省、牧畜副省、家畜衛生局局長
- 2) メキシコ側
 - (1) 家畜衛生センター所長
 - (2) 国立動生剤製造所々長

(3) メキシコ合衆国政府の関係機関の代表

3) 日本側

(1) チームリーダー

(2) チームリーダーが必要と認める専門家

(3) 業務調整員

(4) JICAの代表

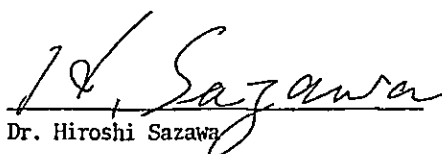
備考： 日本大使館の代表はオブザーバーとして合同委員会に出席できる。

THE RECORD OF DISCUSSIONS BETWEEN THE JAPANESE
IMPLEMENTATION SURVEY TEAM AND THE
AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF
THE UNITED MEXICAN STATES
ON THE JAPANESE TECHNICAL COOPERATION
FOR THE ANIMAL HEALTH CENTER PROJECT

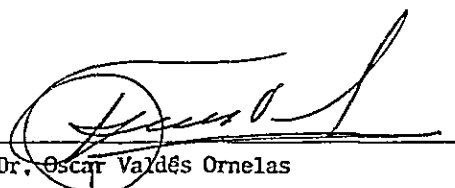
The Japanese Implementation Survey Team (hereinafter referred to as "the Team") organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Dr. Hiroshi Sazawa, visited the United Mexican States from March 30, 1981, to April 16, 1981, for the purpose of working out the details of the technical cooperation program concerning the Animal Health Center Project in the United Mexican States.

During its stay in the United Mexican States, the Team exchanged views and had a series of discussions with the Mexican authorities concerned in respect of the desirable measures to be taken by both Governments for the successful implementation of the above-mentioned Project.

As a result of the discussions, the Team and the Mexican authorities concerned agreed to recommend to their respective Governments the matters referred to in the attached document, written in English and Spanish both of which are equally valid, in Mexico City, on the fourteenth day of April, nineteen eighty one.



Dr. Hiroshi Sazawa
Leader, The Japanese Implemen-
tation Survey Team.



Dr. Oscar Valdés Ornelas
General Director, Animal Health Bureau,
Vice-Ministry of Livestock,
Ministry of Agriculture and Hydraulic
Resources.

THE ATTACHED DOCUMENT.

I. COOPERATION BETWEEN BOTH GOVERNMENTS.

1. The Government of Japan and the Government of the United Mexican States will cooperate with each other in implementing the Animal Health Center* Project (hereinafter referred to as "the Project") for the purpose of contributing to the livestock development through the improvement of animal health in the United Mexican States.
2. The Project will be implemented in accordance with the Master Plan which is given in Annex I.

* SUBDIRECCION DE REFERENCIA EN SALUD ANIMAL.

II. DISPATCH OF JAPANESE EXPERTS AND PRIVILEGES, EXEMPTIONS AND BENEFITS.

1. In accordance with the laws and regulations in force in Japan, the Government of Japan will take necessary measures through JICA to provide at its own expense services of the Japanese experts as listed in Annex II through the normal procedures under the Technical Cooperation Scheme of Japan.
2. The privileges, exemptions and benefits to be granted by the Government of the United Mexican States to the Japanese experts and their families in the United Mexican States will be no less favourable than those granted to experts of third countries or of international organizations such as the United Nations performing similar missions, and include the followings:
 - 1). Exemptions from income tax and charges of any kind imposed on or in connection with the living allowances remitted from abroad.
 - 2). Exemptions from import and export duties and any other charges imposed in respect of personal and household effects including one motor vehicle per each expert which may be brought into from abroad or taken out of the United Mexican States.

- 3). Exemption from import tax, import sales tax, and other taxes and charges of any kind imposed on or in connection with the purchase in the United Mexican States by the Japanese experts of one motor vehicle per each expert.
- 4). Free local medical services and facilities to the Japanese experts and their families.
- 5). Issue of identification cards to the Japanese experts, to secure the cooperation of the authorities concerned of the United Mexican States, necessary for the performance of the duties of the Japanese experts and their families.

III. PROVISION OF MACHINERY AND EQUIPMENT.

1. In accordance with the laws and regulations in force in Japan, the Government of Japan will take necessary measures through JICA to provide at its own expense such machinery, equipment and other materials necessary for the implementation of the Project as listed in Annex III, through the normal procedures under the Technical Cooperation Scheme of Japan.
2. The articles referred to in 1. above will become the property of the Government of the United Mexican States upon being delivered c.i.f. to the Mexican authorities concerned at the ports and/of airports of disembarkation, and will be utilized exclusively for the implementation of the Project in consultation with the Japanese experts referred to in Annex II.

IV. TRAINING OF MEXICAN PERSONNEL IN JAPAN.

1. In accordance with the laws and regulations in force in Japan, the Government of Japan will take necessary measures through JICA to receive at its own expense the Mexican personnel connected with the Project for technical training in Japan through the normal procedures under the Technical Cooperation Scheme of Japan.
2. The Government of the United Mexican States will take necessary measures to ensure that the knowledge and experience acquired by the Mexican personnel from technical training in Japan will be utilized effectively for the implementation of the Project.

V. SERVICES FOR MEXICAN COUNTERPART PERSONNEL AND ADMINISTRATIVE PERSONNEL.

1. In accordance with the laws and regulations in force in the United Mexican States, the Government of the United Mexican States will take necessary measures to secure at its own expense necessary services for Mexican counterpart personnel and administrative personnel as listed in Annex IV.
2. As to the Mexican counterpart personnel, the Government of the United Mexican States will endeavor to allocate the necessary number of suitably qualified personnel corresponding to each Japanese expert to be dispatched by the Government of Japan as specified in Annex II, to fulfill the effective and successful transfer of technology under the Project.

VI. MEASURES TO BE TAKEN BY THE GOVERNMENT OF THE UNITED MEXICAN STATES.

1. In accordance with the laws and regulations in force in the United Mexican States, the Government of the United Mexican States will take necessary measures to provide at its own expense:
 - 1). Buildings and facilities as listed in Annex V.
 - 2). Supply or replacement of machinery, equipment, instrument, vehicles, tools, spare parts and any other materials necessary for the implementation of the Project other than those provided through JICA under III above.
 - 3). Transportation facilities and travel allowance for the Japanese experts for the official travel within the United Mexican States.
 - 4). Suitably furnished accommodations for the Japanese experts and their families.
2. In accordance with the laws and regulations in force in the United Mexican States, the Government of the United Mexican States, will take necessary measures to meet:
 - 1). Expenses necessary for the transportation within the United Mexican States of the articles referred to in III above as well as for the installation, operation and maintenance thereof.

- 2). Customs duties, internal taxes and any other charges, imposed in the United Mexican States on the articles referred to in III above.
- 3). All running expenses necessary for the implementation of the Project.

VII. ADMINISTRATION OF THE PROJECT.

1. The General Director of the Animal Health Bureau will be responsible for the administration and implementation of the Project, and the Japanese experts will provide technical guidance and advice for the implementation of the Project.
2. For the successful and smooth implementation of the Project, there will be close consultation between the Japanese experts and the officials concerned of the Government of the United Mexican States. For the purpose, a Joint Committee will be established as specified in Annex VI.

VIII. CLAIMS AGAINST JAPANESE EXPERTS.

The Government of the United Mexican States undertakes to bear claims, if any arises, against the Japanese experts engaged in the Project resulting from, occurring in the course of, or otherwise connected with the discharge of their official functions in the United Mexican States except for those arising from the willful misconduct or gross negligence of the Japanese experts.

IX. MUTUAL CONSULTATION.

There will be mutual consultation between the two Governments on any major issues arising from, or in connection with this Attached Document.

X. TERM OF COOPERATION.

The duration of the technical cooperation for the Project under this Attached Document will be basically five (5) years from June 1st, 1981. However, there will be a general review by the Japanese Evaluation Team together with the Joint Committee to be held in Mexico City on the progress of the implementation of the Project after three (3) years from the commencement of the cooperation taking account of measures to be taken by the two Governments in order to decide if the cooperation should be continued for two (2) more years.

ANNEX I MASTER PLAN.

The Project will consist of the following activities that will be carried out at Animal Health Center in Tecamac.

1. To establish the techniques on pilot production and assay of GP vaccine for hog cholera.
2. To improve and establish the techniques on diagnosis of hog cholera and African swine fever, including a general advice and guidance on techniques of diagnosis for major viral diseases.
3. To provide technical advice and guidance on the activities referred to in 1. and 2. above to the Researchers and Technicians engaged in animal health service at Animal Health Center and other institutions concerned.

ANNEX II JAPANESE EXPERTS.

	<u>Category</u>	<u>Field</u>
1.	Team Leader	
2.	Experts	Vaccine production Vaccine assay Diagnosis of viral diseases
3.	Liaison Officer	

NOTE: (1) One of the experts to be dispatched as listed above will be designated as Team Leader.

(2) Experts on short-term assignment in field of Epizootiology, Laboratory Animal, Electron-microscope and other may be dispatched when necessity arises.

ANNEX III LIST OF THE ARTICLES.

1. Machinery, equipment, spare parts and materials necessary for experimental production and assay of hog cholera GP vaccine.
2. Machinery, equipment, spare parts and materials necessary for diagnosis of viral diseases.
3. Vaccine strains.
4. Veterinary biological products and medicines including disinfectants.
5. Vehicles.
6. Other necessary machinery, equipment and materials.

ANNEX IV LIST OF MEXICAN STAFF.

	<u>Category</u>	<u>Field</u>	<u>Organization</u>
1.	Project Director		Animal Health Center
2.	Researcher and Technician	Vaccine production	Animal Health Center, National Producer of Veterinary Biologics
		Vaccine assay	Animal Health Center, National Producer of Veterinary Biologics
		Animal virology	Animal Health Center
		Epizootiology	Animal Health Center
		Laboratory animal	Animal Health Center
		Electron-microscope	Animal Health Center
3.	Clerical and service employees		Animal Health Center
4.	Labourers		Animal Health Center

NOTE: At least three (3) counterpart personnel (Researcher and Technician) will be assigned for each field as listed in the category 2. above.

ANNEX V LIST OF BUILDINGS AND FACILITIES.

The following buildings and facilities in Animal Health Center in Tecamac.

1. Main building (administration offices, meeting rooms, library, etc.).
2. Building of biological experimental laboratory.
3. Building of high security department.
4. Building of confirmation and certification department.
5. Building of laboratory animal.
6. Facilities of necropsy.
7. Facility of diagnosis department.
8. Training facilities and dormitory.
9. Facility of animal quarantine.
10. Other necessary buildings and facilities.

ANNEX VI THE JOINT COMMITTEE.

1. Functions.

The Joint Committee composed of those members as listed 2. below will meet at least once a year and whenever necessity arises, and work:

- 1). To review the overall progress of Tentative Implementation Schedule in line with the Master Plan of the Project.
- 2). To review those measures taken by the Government of Japan:
 - (1). Dispatch of Japanese experts,
 - (2). Acceptance of Mexican counterpart personnel in Japan for training.
 - (3). Provision of machinery and equipment.
- 3). To review those measures taken by the Government of the United Mexican States:
 - (1). Allocation of necessary budget (including local cost expenditures).
 - (2). Allocation of necessary counterpart personnel,
 - (3). Utilization of machinery and equipment provided by the Government of Japan.
- 4). To formulate the Annual Operational Plan of the Project.
- 5). And, to recommend to the two Governments particularly on:
 - (1). Budgetary matters.
 - (2). Recruitment and appointment of the Mexican counterpart personnel.
 - (3). Selection and effective utilization of machinery and equipment.
 - (4). Appropriate dispatch of Japanese experts.
 - (5). Acceptance of Mexican counterpart personnel in Japan for training.
 - (6). Others.

2. Composition,

1). Chairman;

General Director, Animal Health Bureau, Vice-Ministry of Livestock,
Ministry of Agriculture and Hydraulic Resources,

2). Mexican Side;

- (1). Head, Animal Health Center.
- (2). General Director, National Producer of Veterinary Biologics.
- (3). Representatives of Organizations concerned to the Government of the United Mexican States.

3). Japanese Side:

- (1). Team Leader,
- (2). Experts designated by the Team Leader,
- (3). Liaison Officer,
- (4). Representatives of JICA,

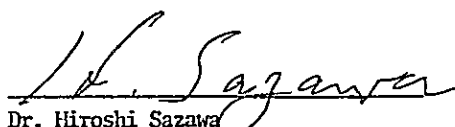
NOTE: Officials of the Embassy of Japan may attend the Joint Committee as observers.

RESUMEN DE LAS DISCUSIONES SOSTENIDAS
ENTRE LA MISION JAPONESA Y
LAS AUTORIDADES CONCERNIENTES DEL GOBIERNO
DE LOS ESTADOS UNIDOS MEXICANOS
SOBRE LA COOPERACION TECNICA JAPONESA
PARA EL PROYECTO DE LA
SUBDIRECCION DE REFERENCIA EN SALUD ANIMAL.

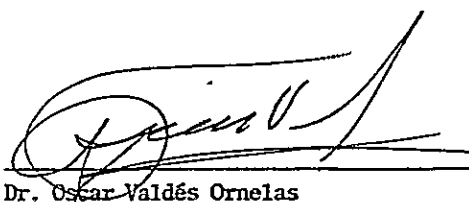
La Misión Japonesa del Estudio para la Ejecución (de aquí en adelante denominada "La Misión"), organizada por la Agencia de Cooperación Internacional del Japón (de aquí en adelante denominada "JICA") y encabezada por el Dr. Hiroshi Sazawa, ha visitado los Estados Unidos Mexicanos, desde el 30 de Marzo de 1981, hasta el 16 de Abril de 1981, con el propósito de determinar los detalles del programa de Cooperación Técnica concerniente al proyecto de la Subdirección de Referencia en Salud Animal (de aquí en adelante denominada "SURESA"), en los Estados Unidos Mexicanos.

Durante su estadía en los Estados Unidos Mexicanos, la Misión intercambió opiniones y tuvo una serie de discusiones con las autoridades concernientes de México con respecto a las medidas que deberán ser tomadas por ambos Gobiernos, para la mejor ejecución del Proyecto.

Después de haber intercambiado opiniones, La Misión y las autoridades concernientes de México, acordaron recomendar a las autoridades de sus respectivos Gobiernos los puntos referidos en el documento adjunto redactado en idioma Inglés y Español ambos igualmente válidos, en la Ciudad de México, D. F., a los catorce días del mes de Abril de mil novecientos ochenta y uno.



Dr. Hiroshi Sazawa
Jefe de la Misión Japonesa del
Estudio para la Ejecución.



Dr. Oscar Valdés Ornelas
Director General,
Dirección General de Sanidad Animal,
Subsecretaría de Ganadería,
Secretaría de Agricultura y Recursos
Hidráulicos.

I. COOPERACION ENTRE AMBOS GOBIERNOS.

1. El Gobierno de Japón y el Gobierno de los Estados Unidos Mexicanos cooperarán mutuamente en la ejecución del Proyecto (de aquí en adelante denominado "el Proyecto" de la SURESA*), con el fin de contribuir al desarrollo pecuario mediante el mejoramiento de la salud animal en los Estados Unidos Mexicanos.
2. El Proyecto será ejecutado de acuerdo con el Plan Maestro, al cual se refiere el Anexo I.

* Animal Health Center.

II. ENVIO DE EXPERTOS JAPONESES, PRIVILEGIOS, EXENCIONES Y BENEFICIOS.

1. De acuerdo con las leyes y reglamentos vigentes en Japón, el Gobierno del Japón tomará las medidas necesarias por intermedio de JICA para proveer por sus propios medios los gastos de servicio de los expertos japoneses, como se estipula en el Anexo II mediante los procedimientos normales bajo el Plan de Cooperación Técnica de Japón.
2. Los privilegios, exenciones y beneficios que se otorguen por el Gobierno de los Estados Unidos Mexicanos a los expertos japoneses y sus familias en los Estados Unidos Mexicanos no serán menos favorables que los otorgados a expertos de terceros países o de organizaciones internacionales tales como las Naciones Unidas que realizan misiones semejantes e incluyen los que se describen a continuación:
 - (1). Exenciones del impuesto sobre la renta y otros impuestos o gravámenes de cualquier naturaleza que se impongan sobre, o en relación con las asignaciones de mantenimiento remitidas desde el exterior.
 - (2). Exenciones del pago de los derechos de importación y exportación y de gravámenes de cualquier otro tipo que se impongan con respecto a los efectos y bienes personales, incluyendo un vehículo motorizado por cada experto, los cuales pueden introducirse en los Estados Unidos Mexicanos desde el exterior o sacarlos del país.

- (3). Exenciones del pago de los derechos de importación, derechos de venta de importación y de otros impuestos y gravámenes de cualquier naturaleza que se impongan sobre, o en relación con, la compra en los Estados Unidos Mexicanos por los expertos japoneses de un vehículo motorizado por experto.
- (4). Asistencia y facilidades médicas gratuitas para los expertos japoneses y sus familias.
- (5). Emisión de cédulas de identidad a los expertos japoneses, para obtener la cooperación de las autoridades concernientes de los Estados Unidos Mexicanos que sea necesaria para el cumplimiento de las tareas de los expertos japoneses y sus familias.

III. PROVISION DE MAQUINARIA Y EQUIPO.

1. De acuerdo con las leyes y reglamentos vigentes en Japón, el Gobierno del Japón tomará las medidas necesarias por intermedio de JICA para proveer por sus propios medios, la maquinaria, equipo y materiales necesarios para la ejecución del Proyecto según se estipula en el Anexo III, mediante los procedimientos normales bajo el Plan de Cooperación Técnica del Japón.
2. Los artículos referidos al párrafo 1. anterior pasarán a ser propiedad del Gobierno de los Estados Unidos Mexicanos, cuando sea enviado el caso c.i.f. a las autoridades concernientes de México, a los puertos y/o aeropuertos de desembarque. Dichos artículos serán utilizados exclusivamente para la ejecución del Proyecto consultando a los expertos japoneses referidos en el Anexo II.

IV. ADIESTRAMIENTO DEL PERSONAL MEXICANO EN JAPON.

1. De acuerdo con las leyes y reglamentos vigentes en Japón, el Gobierno del Japón tomará las medidas necesarias por intermedio de JICA para recibir como propio el gasto de adiestramiento técnico en Japón del personal del Gobierno Mexicano, relacionado con el Proyecto, mediante los procedimientos normales bajo el Plan de Cooperación Técnica del Japón.

2. El Gobierno de los Estados Unidos Mexicanos tomará las medidas necesarias para asegurar que el conocimiento y la experiencia adquirida por el personal mexicano durante el adiestramiento técnico en Japón, sean utilizados en forma efectiva en la ejecución del Proyecto.

V. SERVICIOS DEL PERSONAL DE CONTRAPARTE Y DEL PERSONAL ADMINISTRATIVO DE MEXICO.

1. De acuerdo con las leyes y reglamentos vigentes en los Estados Unidos Mexicanos, el Gobierno de los Estados Unidos Mexicanos tomará las medidas necesarias para conseguir por su cuenta los servicios del personal de contraparte y del personal administrativo de México que se enumeran en el Anexo IV.
2. En cuanto al personal mexicano de contraparte, el Gobierno de los Estados Unidos Mexicanos procurará asignar el número necesario del personal adecuadamente calificado y correspondiente a cada experto japonés a enviarse por el Gobierno del Japón según lo especificado en el Anexo II, de modo que se cumpla con eficacia y éxito la transferencia tecnológica conforme al Proyecto.

VI. MEDIDAS QUE SERAN TOMADAS POR EL GOBIERNO DE LOS ESTADOS UNIDOS MEXICANOS .

1. De acuerdo con las leyes y reglamentos vigentes en los Estados Unidos Mexicanos, el Gobierno de los Estados Unidos Mexicanos tomará las medidas necesarias para proveer como gastos propios:
 - (1). Edificios y facilidades enumeradas en el Anexo V.
 - (2). El suministro o cambio de maquinaria, equipo, instrumentos, vehículos, herramientas, repuestos y cualquier otro material necesario para la ejecución del Proyecto, excluyendo los suministrados por intermedio de JICA (mencionados en el punto III anterior).
 - (3). Los medios de transporte y viáticos para los expertos japoneses durante sus viajes oficiales en los Estados Unidos Mexicanos.
 - (4). Viviendas debidamente amuebladas para expertos japoneses y sus familias.

2. De acuerdo con las leyes y reglamentos vigentes en los Estados Unidos Mexicanos, el Gobierno de los Estados Unidos Mexicanos, tomará las medidas necesarias para cubrir:

(1). Los gastos necesarios para la movilización en los Estados Unidos Mexicanos, de los artículos mencionados en el punto III anterior, así como los gastos de instalación, operación y mantenimiento correspondientes.

(2). Derechos de aduana, impuestos internos y cualquier otro gravámen impuesto en los Estados Unidos Mexicanos a los artículos mencionados en el punto III anterior.

(3). Todos los gastos corrientes necesarios para la ejecución del Proyecto.

VII. ADMINISTRACION DEL PROYECTO.

1. El Director General de la Dirección General de Sanidad Animal será el responsable de la administración y ejecución del Proyecto, y los expertos japoneses proveerán la asistencia técnica y asesoría para la ejecución del mismo.

2. Para una exitosa ejecución del Proyecto será necesario una consulta estrecha entre los expertos japoneses y los oficiales competentes del Gobierno de los Estados Unidos Mexicanos. Por este motivo se establecerá un Comité Mixto según lo especificado en el Anexo VI.

VIII. DEMANDA CONTRA LOS EXPERTOS JAPONESES.

El Gobierno de los Estados Unidos Mexicanos se hará cargo de las demandas contra los expertos japoneses, si alguna surgiera en el curso de la ejecución del Proyecto, o conectadas con el cumplimiento de sus funciones oficiales en los Estados Unidos Mexicanos con excepción de las demandas que surgieran por mala conducta y negligencia de los expertos japoneses.

IX. CONSULTA MUTUA.

Deberá haber consultas mutuas entre los dos Gobiernos sobre cualquier punto de importancia que surja de, o en conexión con este Documento Adjunto.

X. PERIODO DE LA COOPERACION.

La duración de la cooperación técnica para el Proyecto según este Documento Adjunto será básicamente de cinco (5) años contados a partir del 1º de Junio de 1981. Sin embargo, se realizará una revisión general por una Misión de Evaluación Japonesa junto con el Comité Mixto, la cual se llevará a cabo en la Ciudad de México sobre el avance de la ejecución del Proyecto al cabo de tres (3) años a partir del inicio de la cooperación, analizando las medidas que deberán ser tomadas entre los dos Gobiernos y decidir sobre la continuación o no de la cooperación por dos (2) años adicionales.

ANEXO I PLAN MAESTRO.

El Proyecto consistirá en las siguientes actividades que se llevarán a cabo en la Subdirección de Referencia en Salud Animal, en Tecamac:

1. Establecer las técnicas sobre la producción experimental y pruebas de constatación de la vacuna GP contra el Cólera Porcino.
2. Mejorar y establecer las técnicas de diagnóstico del Cólera Porcino, Peste Porcina Africana, incluyendo asesoría general y asistencia técnica de diagnóstico para otras enfermedades virales de importancia.
3. Proporcionar la asistencia técnica y asesoría sobre las actividades mencionadas en los párrafos anteriores 1. y 2. a los Investigadores y Técnicos que se dedican al servicio de salud animal en la SURESA y otras instituciones afines.

ANEXO II EXPERTOS JAPONESES.

<u>CATEGORIA</u>	<u>ESPECIALIDAD</u>
1. Jefe del Grupo	
2. Expertos	Producción de la vacuna Constatación de la vacuna Diagnóstico de enfermedades virales
3. Oficial de Enlace	

NOTA: (1) Uno de los expertos arriba mencionados será designado como *Jefe de Grupo*.

(2) Los expertos asignados para períodos cortos en campos de Epizootiología, Animales de Laboratorio, Microscopio Electrónico y otros, serán enviados cuando se requieran.

ANEXO III LISTA DE MAQUINARIA Y EQUIPO.

1. Maquinaria, equipo, piezas de repuestos y materiales necesarios para la producción experimental y pruebas de constatación de la vacuna GP contra el Cólera Porcino.
2. Maquinaria, equipo, piezas de repuesto y materiales necesarios para el diagnóstico de las enfermedades virales.
3. Cepas vacunales.
4. Productos biológicos veterinarios y medicamentos incluyendo desinfectantes.
5. Vehículos.
6. Otros equipos, maquinaria y materiales que se requieran.

ANEXO IV LISTA DEL PERSONAL MEXICANO.

<u>CATEGORIA</u>	<u>ESPECIALIDAD</u>	<u>ORGANIZACIONES</u>
1. Director del Proyecto		SURESA
2. Investigador y Técnico	Producción de vacuna	SURESA Y PRONABIVE*
	Constatación de vacuna	SURESA Y PRONABIVE
	Virología animal	SURESA
	Epizootiología	SURESA
	Animales de laboratorio	SURESA
	Microscopio electrónico	SURESA.
3. Empleados de Oficina y de servicio		SURESA
4. Obreros		SURESA

*. PRONABIVE: Productora Nacional de Biológicos Veterinarios.

NOTA: No menos de 3 contrapartes (Investigador y Técnicos) serán asignados para cada campo mencionado anteriormente.

ANEXO V LISTA DE EDIFICIOS E INSTALACIONES.

Edificios e instalaciones para el Proyecto en la Subdirección de Referencia en Salud Animal.

1. Edificio principal (oficinas de administración, salas de conferencia, biblioteca, etc.).
2. Laboratorio Experimental de Biológicos.
3. Laboratorio de Alta Seguridad.
4. Laboratorio de Constatación.
5. Edificio del Bioterio.
6. Unidad de Necropsias.
7. Laboratorio de Diagnóstico.
8. Instalaciones y dormitorio para el adiestramiento.
9. Unidad Cuarentenaria.
10. Otros edificios e instalaciones necesarias.

ANEXO VI EL COMITE MIXTO.

1. Funciones.

El Comité Mixto consistente en los miembros descritos en la Sección 2. más adelante se reunirá por lo menos una vez al año, o siempre que sea necesario, con la finalidad de:

- 1). Revisar el avance global del Programa Provisional de Ejecución con arreglo al Plan Maestro del Proyecto.
- 2). Revisar las Medidas tomadas por el Gobierno del Japón, a saber:
 - (1). Envío de expertos japoneses.
 - (2). Aceptación del personal de contraparte mexicano en el Japón para adiestramiento.
 - (3). Provisión de maquinaria y equipo.
- 3). Revisar las medidas tomadas por el Gobierno de los Estados Unidos Mexicanos:
 - (1). Asignación del presupuesto necesario (incluyendo desembolso de gastos locales).
 - (2). Asignación del personal de contraparte necesario.
 - (3). Utilización de maquinaria y equipo suministrados por el Gobierno del Japón.
- 4). Elaborar el Plan Anual de Operación del Proyecto.
- 5). Recomendar a los dos Gobiernos particularmente sobre:
 - (1). Asuntos presupuestarios.
 - (2). Reclutamiento y nombramiento del personal mexicano de contraparte.
 - (3). Selección y utilización efectiva de maquinaria y equipo.
 - (4). Envío oportuno de expertos japoneses.
 - (5). Aceptación del personal mexicano de contraparte en el Japón para adiestramiento.
 - (6). Otros asuntos necesarios.

2. Composición.

1). Presidente:

Director General, Dirección General de Sanidad Animal, Subsecretaría de Ganadería, Secretaría de Agricultura y Recursos Hidráulicos.

- 2). Parte Mexicana:
 - (1). Subdirector, Subdirección de Referencia en Salud Animal.
 - (2). Director General, Productora Nacional de Biológicos Veterinarios.
 - (3). Representantes de organizaciones interesadas.

- 3). Parte Japonesa:
 - (1). Jefe del Grupo.
 - (2). Expertos designados por el Jefe del Grupo.
 - (3). Oficial de Enlace.
 - (4). Representantes de JICA.

NOTA: Oficiales de la Embajada del Japón podrán asistir a las reuniones del Comité Mixto como observadores.

2. 家畜衛生センタープロジェクト実施計画

プロジェクト実施計画（仮訳）

日本側実施調査団々長と農業水資源省家畜衛生局長は、ここに添付された本プロジェクト実施計画案を、一緒に作成した。

この計画案は、日本側実施調査団々長と家畜衛生局長の間で署名された協議書（R/D）添付文書の関連で、家畜衛生センタープロジェクトに対して、次の条件のうえで作定された。

その条件は、プロジェクト実施に必要な予算処置が、両口サイドで今後なされること、及びプロジェクト実施中に必要が生じ協議書の範囲内で、この計画が変更することがあることの2点である。

メキシコ市において

昭和56年4月14日

農業水資源省家畜衛生局長

オスカー、バルデス、オルネラス

日本側実施調査団々長

佐藤弘士

年 次 実 行 計 画 案

年次 項目	間 期				
	第 1 年	第 2 年	第 3 年	第 4 年	第 5 年
豚コ レ ラ ン 造 製	準備調整 (a) 器具機械 (b) モルモット生産 (c) 検査方法の確立 基 礎 技 術 (a) 組織培養(モルモット) (b) ウイルス及び抗体検査 (c) 蛍光抗体法	マスターシードウイルスの作成 試作ワクチンの製造 (a) 凍結乾燥 (b) 現行ワクチンの比較	マスターシードウイルスの検査 試作ワクチンの検査 (a) 野外試験 (b) 繁殖豚の抗体調査 予防注射プログラムの確立	試作ワクチンの量産 (動生剤製造所) 大量ワクチン製造の研究 豚コレラ以外のウイルスワクチンの製造 2)	ワクチンの量産 (動生剤製造所) 実採用の製造 豚コレラ以外のウイルスワクチンの製造 2)
ウイルス病診断	豚コレラ診断 (a) 組織培養(PK-15・モルモット, 腎丸細胞) (b) クリオスタットによる薄切 (c) 蛍光抗体法 (d) 酵素抗体法	標準品の作成 (a) ウイルス株 (b) 抗血清 (c) 細胞株	ウイルス検出と分離 ¹⁾ (a) 組織培養 (b) 動物試験 (c) 発育卵 (d) 電子顕微鏡	抗体検査 (a) 袖体結合反応 (b) 血球凝集抑制反応 (c) 酵素抗体法 (d) ゲル沈降反応	免疫学的手法の確立 (a) 免疫グロブリンの分画 (b) リンパ球の活性測定

1) 豚, 牛, 家畜その他動物ウイルス病

2) オーエスキー, 豚伝染性胃腸炎, 牛鼻気管炎, 牛ウイルス下痢, マレック及びその他

1. 日本側の措置

	昭56年6月～ 昭57年5月	昭57年6月～ 昭58年5月	昭58年6月～ 昭59年5月	昭59年6月～ 昭60年5月	昭60年6月～ 昭61年5月
I 専門家(長期)					
1. チャームリダー	←				
2. ワクチン製造	←				
3. ワクチン製造		←			
4. ワクチン検査			←		
5. ウイルス病診断	←				
6. 事務調査員	←				
					← 276人/月 ← 324人/月
II 専門家(短期)					
1. 疫学	各分野それぞれ数カ月				
2. 動物実験					
3. 電子顕微鏡					
4. 機械工学					
III 器具機械及び動生剤					
V 研修受入れ					毎年2名のカウンターパートの6カ月間の研修と毎年2名の高官の8週間の研修

2. メキシコ側の責務

	昭56年6月～ 昭57年5月	昭57年6月～ 昭58年5月	昭58年6月～ 昭59年5月	昭59年6月～ 昭60年5月	昭60年6月～ 昭61年5月
I カウンターパート					
1. プロジェクトマネージャー/委員長					
2. 研究者					
(a) ワクチン製造					
(b) ワクチン検査					
(c) 獣医ウイルス					
(d) 疫 学					
(e) 動物実験					
(f) 電子顕微鏡					
II 事務業務職員					
1. 事務員					
2. 補助員, 機械操作員, 労務者					
3. その他					
III 家畜衛生センター工事					
IV 事務所実験室 (実験台, 机, 棚等)					
V 運営費(賃金, 電話料, 電気料, 燃料, 器具の取付け)					
VI その他の運営費					

基本的分野に対しては各日本人専門家に対し少くとも8名のカウンターパート

必要人員の配置

充足

充足


充足

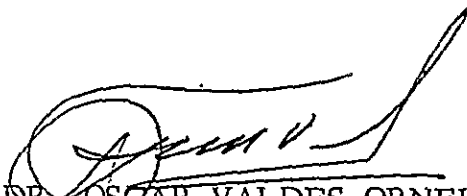
TENTATIVE SCHEDULE FOR THE IMPLEMENTATION OF
THE ANIMAL HEALTH CENTER PROJECT

The Leader of the Japanese Implementation Survey Team and the General Director of Animal Health Bureau, Vice-Ministry of Livestock, Ministry of Agriculture and Hydraulic Resources have jointly formulated the Tentative Schedule for the Implementation of the Project as annexed hereto.

This has been formulated in connection with the Attached Document of the Record of Discussions signed between the Leader of Japanese Implementation Survey Team and the General Director of Animal Health Bureau, for the Animal Health Center Project on the conditions that necessary budget will be allocated for the implementation of the Project by both sides, and that the Schedule is subject to change within the framework of the Record of Discussions when necessity arises in the course of implementation of the Project.

Mexico City, April 14, 1981


DR. HIROSHI SAZAWA
Leader, the Japanese
Implementation Survey Team


DR. OSCAR VALDES ORNELAS
General Director, Animal Health
Bureau,
Vice-Ministry of Livestock,
Ministry of Agriculture and
Hydraulic Resources.

PROGRAMA PROVISIONAL PARA LA EJECUCION DEL PROYECTO
DE LA SUBDIRECCION DE REFERENCIA EN SALUD ANIMAL

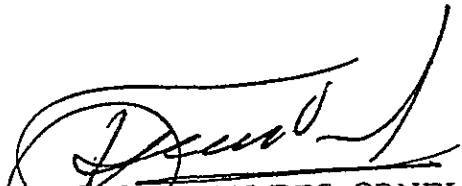
El Jefe de la Misión Japonesa del Estudio para la Ejecución y el Director General de Sanidad Animal, Subsecretaría de Ganadería, Secretaría de Agricultura y Recursos Hidráulicos, han formulado conjuntamente el Programa Provisional para la Ejecución del Proyecto que se anexa,

Este ha sido formulado en relación con el documento que se anexa, del registro de las discusiones firmadas entre el Jefe de la Misión Japonesa del Estudio para la Ejecución y el Director General de Sanidad Animal para el Proyecto de la Subdirección de Referencia en Salud Animal, bajo la base de que se dispondrá por ambas partes del presupuesto necesario para la Ejecución del Proyecto y que el Programa está sujeto a cambios dentro de los lineamientos del registro de discusiones cuando sea necesario en el curso de la Ejecución del Proyecto.

México, D.F., 14 de abril de 1981



DR. HIROSHI SAZAWA
Jefe de la Misión Japonesa del
Estudio para la Ejecución.



DR. OSCAR VALDES ORNELAS
Director General de Sanidad Animal
Subsecretaría de Ganadería,
Secretaría de Agricultura y
Recursos Hidráulicos.

TENTATIVE ANNUAL WORK PLAN

Term of Cooperation						
Item	Year	1st	2nd	3rd	4th	5th
Production of GP vaccine for hog cholera		Preparation (a) Machinery & equipment (b) Breeding of guinea pig (c) Establishment of assay procedure Basic techniques (a) Tissue culture (guinea pig) (b) Assay of virus and antibody (c) Fluorescent antibody technique	Production of master seed virus Production of pilot vaccine (a) Freeze drying technique (b) Comparison with vaccines now in use	Assay of master seed virus Assay of pilot vaccine (a) Field experiment (b) Antibody survey of breeding sow Establishment of vaccination program	Massive production of pilot vaccine (PRONABIVE) Training of counterpart for massive vaccine production Production of other viral vaccines <u>2/</u>	Massive production of vaccine (PRONABIVE) Preparation of practical application Production of other viral vaccines <u>2/</u>
Diagnosis of viral diseases		Diagnosis of hog cholera (a) Tissue culture (PK-15, pig testicle cells) (b) Sectioning by cryostat (c) Fluorescent antibody technique (c) Enzyme labelled Immunoassay	Preparation of standard (a) Viral strain (b) Antiserum (c) Cell strain	Virus detection and isolation <u>1/</u> (a) Tissue culture (b) Animal experiment (c) Embryonated egg (d) Electron microcopy	Assay of antibody (a) Complement fixation test (b) Hemagglutination inhibition test (c) Enzyme labelled immunoassay (d) Gel immunodiffusion test	Establishment of immunological method (a) Fractionation of immunoglobulin (b) Measurement of lymphocyte activity

1/ Swine, bovine, avian & other animal viral diseases.

2/ Aujeszky, TGE, IBR, BVD, Marek, and other.

1. JAPANESE CONTRIBUTION

Item	1981.6 - 1982.5	1982.6 - 1983.5	1983.6 - 1984.5	1984.6 - 1985.5	1985.6 - 1986.5	TOTAL
I EXPERTS (Long-term Assignment)						
1. Team Leader	←	←	←	←	←	276 (←→), 324 (←→) man-months
2. Vaccine Production	←	←	←	←	←	
3. Vaccine Production	←	←	←	←	←	
4. Vaccine Assay	←	←	←	←	←	
5. Diagnosis of Viral Diseases	←	←	←	←	←	
6. Coordinator	←	←	←	←	←	
II EXPERTS (Short-term Assignment)						
1. Epidemiology						Several man-months
2. Animal Experiment						
3. Electron Microscopy						
4. Mechanical Engineering						
III MACHINERY, EQUIPMENT & BIOLOGICS						
←						
IV TRAINING ACCEPTANCE						
← { Two trainees for 6 months per year } ← { Two high officers for 3 weeks per year } ←						

2. MEXICAN RESPONSABILITIES

	1981.6 - 1982.5	1982.6 - 1983.5	1983.6 - 1984.5	1984.6 - 1985.5	1985.6 - 1986.5	TOTAL
I COUNTERPARTS	←-----→					
1. Project Manager/Director						
2. Researcher & Technician	←-----→					
(a) Vaccine Production						
(b) Vaccine Assay						
(c) Veterinary Virology						
(d) Epizootiology						
(e) Animal Experiment						
(f) Electron Microscopy						
II ADMINISTRATIVE PERSONNEL	←-----→					
1. Clerical Personnel	←-----→					
2. Service Employees Operators, Labourers	←-----→					
3. Others	←-----→					
III CONSTRUCTION OF ANIMAL HEALTH CENTER	←-----→					
IV OFFICE AND LABORATORY ACCOMODATION (Tables, desk, shelf etc.)	←-----→					
V LOCAL COST (wages, expenses for telephone, electricity, fuel and installation of equipment etc.)	←-----→					
VI OTHERS LOCAL COST	←-----→					

第4章 家畜衛生センターに関する補遺



1 家畜衛生センターの概要（1981年4月現在）

地方診断所の増加と既存の診断所の支援の為に中央診断所の設立が必要となった。動物疾病の診断実施に加えて家畜衛生局（D・G・S・A）の技術者の研修センターとしても役立てることになる。

1971年メキシコ郊外のテカマクに中央研究所の建設が始まり、1973年に計画の拡大があり、国立家畜衛生センター（C・E・N・A・S・A）となった。1978年診断部、悪性伝染病部、検定検査部が1979年上半期に、実験動物室、検疫室が建設された。

1979年に家畜衛生局の機構改革により、衛生局組織の一つとなり家畜衛生センター（SURESA）と改称した。

農業水資源省の行う農牧、森林に関する研究開発調査や補助計画調査の実施等の中で家畜衛生分野の特殊な問題の解決に協力し、科学的知識を応用することを目的としてできたものである。

（機構）

SURESAは次局（Subdirección）に属し5部と2室からなる。

（人員）

獣医師	35人	司書	1人
化学者	3人	維持管理者	3人
栄養士	1人	維持補助員	4人
技術者	14人	総務関係	23人
研究員	28人	秘書	9人
研究補助員	12人		

（総員 133人）

なお家畜衛生局からの出向人員が居りその内訳は、獣医師1人、秘書2人、司書1人、合計4人である。

I 診断部

この部は全国に配置した地方の診断所のための中央センターとして機能し、各診断所でバラバラである技術手法を統一し、病気の診断基準を統一する目的がある。

人員内訳

獣医師	13人	研究員	12人
化学者	1人	研究補助員	6人
化学技術者	1人	秘書	1人
技術者	6人	（総員	40人）

主な業務

実験室における標準診断技術の指導

診断技術の組織体制作り

新しい診断技術の実践

診断部には5検査室がある。

- 1 蛍光抗体法検査室：各種動物の蛍光抗体法による狂犬病の診断、生物学的検査の実施
- 2 細菌・真菌検査室：地方診断所等から送付される材料につきカビと細菌の分離、同定を行なう。
- 3 血清学的検査室：ブルセラ、ベネゼエラ馬脳炎、レプストピラ等の家畜衛生局の防疫キャンペーンを支援するための血清学的診断を行なう。
- 4 病理検査室：動物疾病の診断のため解剖と病理組織学的検査を行なう。
- 5 中毒、栄養検査室：飼料や牧草の中毒を防ぐため、送付材料の分析、輸出肉等の異常検査を行なう。

その他の情報については衛生情報資料を参照。

II 臨床病理部

この部は家畜衛生センターの管轄内にある個人牧場の技術援助を行ない、地方診断所の診断を踏えより完全な診断を下す目的をもつ。

人員内訳

獣医師	12人	秘書	4人
化学者	2人	(総員)	22人)
研究員	4人		

主な業務

家畜衛生センターの管轄にある地方診断所から届いた材料の受領と配分を行なう。

各検査室で順序正しくかつ適切に診断ができるよう配慮する。

家畜衛生センター業務（疾病の診断、発生状況等）を定期的に（地方診断所や関連機関へ）連絡する。

管轄内の技術的援助と診断業務の調整を行なう。

臨床病理部は5検査室で構成される。

- 1 臨床検査室：最終的な診断を行なうために血清成分の分析、髄液の分析、尿の検査等の補助診断検査を行なう。
- 2 寄生虫検査室：家畜に被害を与える内・外寄生虫の調査、寄生幼虫の分類、研究を行なう。駆虫計画の推進を通じて一般飼育家への助言を行なう。
- 3 鶏病検査室：管轄内の養鶏家への技術援助と鶏疾病の確実な診断を行なう。
- 4 解剖検査室：罹患動物の解剖を病理検査室と協同して行なう。

家畜衛生局の地方診断所からの材料を受領、配布、研究成果の連絡、
集成、統計情報の収集を行なう。

- 5 技術援助サービス室：内部外部寄生虫、ブルセラ、結核、豚コレラ等の疾病予防とコントロールに関して、地方の牧場への技術援助をラジオ等により行なう。

Ⅲ 検定検査部

この部は動物に使用される製品の規格や検査基準、家畜衛生サービス部門との協力、動物に使われる資材や化学薬品、生物学的製剤、配合飼料の効力や安全性、純粋性、品質を証明するための検査や分析を実施する。

人員内訳

獣 医 師	2 人	研 究 員	3 人
栄 養 士	1 人	秘 書	1 人
化 学 者	1 人	(総 員	8 人)

業 務

- 1 飼料研究員：自動測定装置として "Technicon Infraalgyer 400" があり下記分析に使用される。

イ 蛋白、エーテルの抽出物、繊維、灰分、水分、窒素態の分析

ロ 鈣質分析 (Ca、P、Na、塩化物)

ハ アミノ酸の検定

この研究室では同様に微生物汚染の程度を調べる目的で飼料の生物学的検定を行なう。

- 2 生物学研究室：動物に使うそれぞれのワクチンの無菌、純度、安全、効力の検定を行なう。

化学薬品に関しては安全性と効力をチェックする目的で動物製剤検定の様に化学的純度を確認、研究する。

Ⅳ 悪性伝染病部

この部は動物疾病とウイルス疾病の診断技術の確立と開発を目的とし、研究室における診断のための生物学的、及びワクチン試作のためのウイルス性状の研究を行なう。この目的を果たすため3室があり、内2つについては污水消毒、空調設備を備え環境のコントロールを基本とし安全システムをとっている。

人員内容

獣 医 師	7 人	研 究 補 助 員	5 人
技 術 者	2 人	秘 書	1 人
研 究 員	4 人	(総 員	19 人)

業 務

- 1 ウィルスや人獣伝染病研究室：ウィルス疾病の診断業務も同時に実施しており、豚コレラとアフリカ豚コレラの鑑別診断を行なう。ウィルス疾病に対する抗体の検出、検定し、抗原、抗血清の生産技術の確立、高度な技術の活用、各研究室で分離ウィルス株の特異性の研究を行なう。
- 2 伝染病試験室：特に牛の結核に関する業務を行ない、その他の疾病については診断部と共に行なっている。
- 3 検疫試験室：動物の状態の観察を目的とし、同時に健康状態の確認に必要な検査を行なう。
なう。また悪性伝染病研究室で検査を実施できない動物検査（ワクチン接種試験等）を行う。

V 実験動物試験室

家畜衛生センターでの検定、検査、病性鑑定等での診断方法の強化に必要な実験動物を生産し、各研究室に供給する。この試験室は1,020㎡の土地に建てられ、実験動物（ネズミ、ハムスター、モルモット、兎）を飼育する7室がある。

他に、

SPF鶏を飼育する場所

洗 浄 室
事 務 室
倉 庫
機 械 室

人員内容

獣 医 師	1 人	飼 育 補 助 員	1 人
飼 育 係	5 人	(総 員	7 人)

月間生産頭羽数

哺乳マウス	800匹
離乳マウス	200匹
成マウス	200匹
兎(1.5 Kg)	25羽

各種の研究検定のため、供血動物の維持も行なう。実験動物の生産は実際の必要量をベースで行なわれているので施設容量の25%で稼動している。

VI 施設管理室

この室は家畜衛生センターの各研究室が有効に活動するために、器材、機械、施設維持に責任をもつ。

人員内容

技術者	4人	維持補助員	4人
維持管理員	3人	(総員)	11人)

VII 企画連絡室

家畜衛生センターの統括部門、すなわち企画連絡室で行う下記の活動分野の総てにおいて、総務と共に家畜衛生センターの事務の調整を行なう。

試薬、資材の調達

補助金の調整

予算の配分と調整

技術普及と資材の調整

人員内訳

企画連絡員	1人	秘書	2人
企画補助員	8人	管理補助員	7人
運転手	5人	(総員)	23人)

(1981年度SURESAの人員補充計画)

検定検査部	5人(代学技師2人、獣医師1人、技術者2人)
悪性伝染病部	4人(獣医師2人、技術者2人)
診断部	4人
司書	1人
受付	1人
実験動物室	2人(飼育補助員)
施設管理室	10人(技術者3人、維持補助員7人)
運転手	1人
経理補助員	2人
合計	20人

2 家畜衛生センター保有スタム一覧(1981年4月実施協議チーム調べ)

(ウイルス名)	製造元・月日	(株)	(継代数)	(継代材料)	(採取日)	(ウリス価)	(保存容器)	(レプロコ)	(量)	(チューブ) (ピン等)	使用 年月日
Moguillo canino	AMES 2-II-76	S.Hill	-	-	-	-	Vial	I	1ml	2	-
Moguillo canino	AMES 1-I-74	Back Bom	-	-	-	-	Vial	II	0.7ml	2	-
Heratatos canino	AMES -II-76	mirandolo	-	C7	-	-	Vial	I	1ml	2	-
EEV	-	-	-	-	-	-	Viales	II	1ml	25	-
E EW	-	-	-	-	-	-	Ampulas	II	1ml	21	-
Oiarrea Viral Bovina (BK.A)	JAPON(NIAH) 21-II-78	Nose	1	BT	-	-	Fcos	I	4ml	15	-
"	JAPON(NIAH) 14-II-78	-	-	ST-53	-	-	Tubos	II	2ml	2	-
"	JAPON 14-II-78	-	2	ST	1-IV-81	-	Tubos	II	2ml	5	-
"	AMES -	LOTE-9 Singer	-	BT'S	-	-	Tubos	II	1ml	2	-
"	AMES II-79	Singer L-3A	-	BT	-	-	Tubos	II	1ml	2	-
"	JAPON II-80	-	1 (Mex)	ST	24-II-81	-	Tubos	I	1ml	100	-
"	JAPON -	Nose	2	BT	-	-	-70°C	I	4ml	15	-
I.B.R	II-76	P.M. Origin	-	-	-	-	Tubos	II	1.5ml	3	-
I.B.R	X-76	"	-	-	-	-	Tubos	II	1ml	2	-
I.B.R. Vaccine	AMES	-	-	-	-	-	Tubos	II	8ml	1	-
I.B.R	AMES	P.M. Origin	2	BT	10-II-81	10 ⁸	Tubos	II	1ml	50	-
"	JAPON	-	1 (Mex)	BT	22-X-79	-	Bottella	II	15ml	1	-
"	AMES	P.M	1 (Mex)	BK	17-III-78	-	Bottella	I	15ml	1	-
"	JAPON	-	-	-	-	-	Tubos	II	5ml	2	-
"	AMES	P.M	-	-	-	-	Tubos	II	4ml	3	-
"	JAPON	-	-	-	-	-	Tubos	II	4ml	8	-
"	-	-	-	-	-	-	Viales	I	2ml	4	-

(ウイルス名)	製造元・月日	(株)	(継代数)	(継代材料)	(採取日)	(ウイルス) (力価)	(保存容器)	(レブコ)	(量)	(チューブ) (ピン等)	使 年 月 日
IBD Desafio	AMES 3-Ⅱ-79	-	-	-	-	-	Vial	I	2ml	1	
"	AMES	-	-	-	-	-	Vial	I	10ml	1	
New Castle	AMES	Fexas	GP/4	G.P	-	-	Vial	I	5ml	1	
TCT	AMES 26-Ⅱ-78	-	2	CK	-	-	Vial	I	5ml	1	
N.C.	AMES	MPA	42	-	-	$10^{10.7}/M1$	Vial	I	4ml	3	
C.E Virus	AMES	E.D.R	5	-	-	-	Vial	I	2ml	2	
Brongnitis Infeciose	AMES	Beavdetle	-	-	-	-	Vial	I	2ml	2	
Fowl Pox	AMES	ORT -101	2	CAM	-	-	Viales	I	4ml	2	
Neu Castle	AMES	La Sota	2	CK	26-Ⅱ-78	-	Vial	I	2ml	2	
New Castle	JAPON	ARE/4	-	-	-	-	Tubos	I	5ml	1	
New Castle Turkey	JAPON	TSV AR/4	-	-	-	-	Tubos	I	1ml	5	
New Castle	- 25-K-80	MSA	42	-	-	$10^{9.7}/M1$	Fcos	I	5ml	10	
"	JAPON	TCND	-	-	-	-	Fco	I	5ml	1	
"		TCND	-	E.P	-	-	Fco	I	10ml	1	
"		TCND	-	-	-	-	Fco	I	5ml	1	
"		MIYADERS	-	E.P	-	10,000DFVS	Fco	I	5ml	1	
"		TCND	-	E.P	-	64-128UHA	Tubos	I	5ml	14	
"		TCND	64	-	-	-	Fcos	I	5ml	6	
"	JAPON13-I-81	MIYADERS	I(M)	E.P	9-Ⅱ-81	64VHA'S	Tubos	I	1ml	60	
"	JAPON13-I-81	MIYADERS	I(M)	E.P	9-Ⅱ-81	64VHA'S	Tubos	I	1ml	5	
LTI (Rinos/4)	V.S.A	-	-	-	-	-	Tubos	I	5ml	1	
IBV	V.S.A 12-V-77	BERVSEFTE	-	-	-	-	Viales	I	5ml	2	
Adeno Virus	AMES	BC-14	-	-	-	-	Vial	I	1ml	1	
Adeno Virus	AMES	A-127	-	-	-	-	Vial	I	10ml	1	

(ウイルス名)	製造元・月日	(株)	(継代数)	継代材料)	(採取日)	(ウイルス価)	(保存容器)	(レブコ)	(量)	(チューブ等)	使用年月日
Colera Porcino	JAPON M-80	A-76	1 (Mex)	S.T	24-II-81	-	Tubos	I	1 ml	10	
Colera Porcino Semiliv	JAPON 24-II-76	-	-	-	-	-	Fcos	I	5 ml	25	
Colera Porcino	JAPON 21-K-78	A-76	2 (Mex)	S.T	-	-	Fcos	I	2 ml	8	
"	-	A-76	-	-	23-1-81	-	Tubos	I	2 ml	1	
"	M-80	A-76	1 (Mex)	S.T	24-II-81	-	Tubos	I	1 ml	75	
Colera Porcino Virulente	AMES	PDHCV	-	-	-	-	Tubos	I	3 ml	1	
H.C.V. Cell Adapted DKIS	AMES	-	-	-	-	-	Tubos	I	2 ml	1	
H.C.V. Virulent	29-K-80	-	-	-	-	-	Viales	I	7 ml	9	
H.C.V.	-	-	1	-	-	-	Tubos	I	2 ml	2	
T.G.E Virus	AMES K-76	Partec	-	-	-	-	Tubos	I	2 ml	2	
"	AMES M-78	Partec	-	-	-	-	Tubos	I	2 ml	1	
T.G.E Virulent Virus	AMES 2-V-75	NDOD	-	-	-	-	Tubos	I	5 ml	1	
T.G.E Vacunal	AMES K-79	-	-	-	-	-	Tubos	I	1 ml	25	
H.C.V Virulent	-	-	-	-	-	-	Ampulas	I	30 ml	6	
"	-	-	-	-	-	-	Ampulas	I	15 ml	4	
"	-	-	-	-	-	-	Viales	I	3 ml	16	
Influenza	AMES 15-M-76	AG 4-7 CE/24 JAG 4-2	-	-	-	-	Tubos	I	2 ml	4	
"	AMES M-77	Wisc 68	-	-	-	-	Tubos	I	1 ml	2	
PI3	AMES	Tpo5, Lot2	-	-	-	-	Tubos	I	1 ml	2	
Enterovirus Porcino	AMES N-76	Tpo6	-	-	-	-	Tubos	I	2 ml	2	
"	AMES M-76	Tpo2(08β)	-	-	-	-	Tubos	I	3 ml	2	
"	AMES M-77	P.P.U..ST.	-	-	-	-	Tubos	I	7 ml	2	
"	AMES I-77	Tpo7,8,	-	-	-	-	Tubos	I	1 ml	2	
P.E.V EMSK	AMES W-78	Tpo1,3,4	-	-	-	-	Tubos	I	2 ml	3	
"	AMES N-78	SHOPE (Ashis)	-	-	-	-	Tubos	I	1 ml	5	
P.R.V	AMES 8-N-77	SHOPE	-	-	-	-	Tubos	I	1 ml	2	
P.R.V Cell Adapted Virus	AMES 8-N-77	SHOPE	-	-	-	-	Tubos	I	2 ml	1	
P.R.V Virulent	AMES 4-M-77	P.P-1, RR-2040	-	-	-	-	Tubos	I	5 ml	1	
P.R.V	AMES - -	1st Possin	-	-	-	-	Tubos	I	10 ml	1	

3 検 定 基 準

(1) 弱毒豚コレラウイルスワクチンの検定基準

(家畜衛生局、1977年11月メキシコ連邦区、獣医用生物学的製剤の検定基準より抜粋)

1-1 製品の性状：弱毒豚コレラ生ウイルスによる製剤

1-2 製造材料：豚腎の初代培養細胞、または継代細胞、牛腎、家兎の血液、脾あるいはリンパ節

1-3 検定基準：製造業者または登録責任者は、各ロットの最終製品について、市販前に次の試験を行わなければならない。

1-3-1：この検定はワクチン製品に証明できる迷入微生物が無いことを示すものである。

1-3-1-1：好気性と嫌気性培養を用いた細菌試験において、製品はいずれの細菌の迷入も無いことを示さなければならない。

1-3-1-2：製品にカビと酵母の無いことを証明するため必要な試験を行わなければならない。

豚組織に由来する初代培養細胞で作られたワクチンの場合：

1-3-1-3：オーエスキー病ウイルスの迷入が無いことを確かめるために試験を行わなければならない。この試験には2羽の家兎を用い、製造研究所が示した通りに溶解したワクチンの1 mlを皮下接触する。試験ウサギは接触後少なくとも10日間、毎日観察する。試験期間中兎はオーエスキー病の症状を示してはならない。

1-3-1-4：豚丹毒菌の迷入のないことを証明するための試験を行わなければならない。この試験には、3羽の幼若鳩または体重15 gで28～32日令の同じ種類の8匹のマウスを用える。鳩を用いた場合は、各羽にワクチン1 mlを筋肉内接種する。マウスを用いた場合は0.2 mlを皮下接種する。

接後10日間動物のすべてが症状を示さず生存すれば試験に合格する。

1-3-2：安全同居試験：4頭の感受性豚（豚コレラ抗体の無い）を用い、高度免疫血清を接種せず製造研究所が示した通りに準備調製した試験ワクチンの5ドースをそれぞれ接種する。

製造研究所が豚コレラ抗血清の同時接種を指示した場合は、表示されたワクチン血清のドースの2倍量を試験に用いる。

いずれの例においても、すべての豚は接種後最低14日間はワクチンによるいかなる症状、病変あるいは死亡を示してはならない。この試験の期間中、ワクチンを接種して

いない4頭の感受性豚を初日から同居させ、同居試験を行なう。

1-3-3：力価試験：体重18～30kgの11頭の感受性豚を用いる。6頭はワクチンを接種し、5頭は対照群とする。

ワクチンは付属溶解液で1：100に希釈し製造研究所の示す用量、用法に従って接種（*普通筋肉内接種とされている …… 調査団挿入）する。ワクチン接種14日後、すべての豚にワクチンを接種した時と同じ方法で50%致死量の100万倍感染量を含む強毒豚コレラウィルスの2mlを接種する。接種後14日間毎日観察し結果を記録する。ワクチンを接種した6頭中5頭は攻撃後、臨床症状を示さず生存し、対照群の5頭のうち、少なくとも4頭は定型的豚コレラの症状を示すか発病死しなければならない。

1-4 市場販売規準を認定するために、製造業者または登録責任者は、製品の各ロットについて、その製造月日から有効期間終了時まで、製品に表示された保管条件並びに先に要請された必要条件をみたし、また抜き取り見本は製品のラベルに表示された有効期限の3ヶ月後まで保管することが市販品に必要である。

4 保有実験動物—2/2 1981 4/3 現在

マウス	スイス白色	—CFW系—		
	原種	♂ 45	♀ 45	哺育 82
	種用	♂ 170	♀ 340	// 239
	繁殖	♂ 112	♀ 448	
ハムスター	ゴールデンハムスター			
	原種	♂ 26	♀ 26	哺 9
	種用	♂ 26	♀ 26	
てんじくねずみ	ハートレイ雑種	尾短		
	原種	♂ 30	♀ 90	哺乳 20
	種用	♂ 100	♀ 90	(年令異なる)
ウサギ	ニュージーランド白色種			
	原種	♂ 2	♀ 18	哺乳 26

5. 病性鑑定診断様式

臨床検査室

血液検査成績表

症例 No. _____
 日 付 _____

所有者 _____
 住 所 _____
 種 類 _____ 品種 _____ 性 _____ 年齢 _____
 材 料 名 _____ 試験名 _____

確 認 確 認 確 認

赤血球 × mm ³									
白血球 × mm ³									
ヘモグロビン g/100ml									
ヘマトクリット %									
リンパ球 %									
単 球 %									
セグメント 分割 %									
バンドス 側面 %									
メタミエロシト %									
ミエロシト %									
エオジノフィル									
バソフィル									
V G M M3									
C M H G %									
血漿蛋白 g/100ml									
判 断									
正 常 数 値									
カルシウム _____ mg / 100 ml .									mg / 100 ml
リ ン _____ mg / 100 ml .									mg / 100 ml

署 名 _____

SURESA-RD-1.

臨床検査室

症例 No _____
 No _____
 日付 _____

所有者 _____
 住所 _____
 種類 _____ 品種 _____ 性 _____ 年齢 _____

結果

血液検査

注解

赤血球 _____ X mm³
 白血球 _____ X mm³
 ヘモグロビン _____ g/100 ml
 ヘマトクリット _____ %
 リンパ球 _____ %
 単球 _____ %
 セグメント _____ %
 バンダス _____ %
 メタミエロシト _____ %
 ミエロシト _____ %
 エオジノフィル _____ %
 バソフィル _____ %
 血漿蛋白 _____ g/100 ml
 V G M _____ m³
 H G M _____ mmg
 C M H G _____ %

観察

血液の化学組成

正常値

カルシウム

鉄

マグネシウム

TSGO

TSGP

mg/100 ml中の前述の値

尿の物理的一般検査

量 _____
 色 _____
 透明度 _____
 濃度 _____

化学的検査

PH _____
 蛋白 _____
 せんい _____

搬入月日 _____

SURESA-RD-2.

臨床検査室

寄生虫病

症例 № _____
日 付 _____

所有者 _____

住 所 _____

種 類 _____ 品種 _____ 性 _____ 年齢 _____

受領時の材料の状態 _____

結 果

寄生虫の確認 _____

№	確 認	アナプラズマ・ ピロプラズマ等	肺 虫	肝 蛭	その他の結果

混合感染

- * 軽度
- ** 中度
- *** 重度

. emp*

般入月日 _____
署 名 _____

SURESA-RD-3.

栄養・毒物検査室

栄養分析結果

地方症例№ _____

地方診療所№ _____

症例番号 _____

日付 _____

材料の数と状態 _____

所有者 _____

住所と電話番号 _____

材料名(%)

材料名(%)

乾燥材料		
水分		
粗蛋白質		
粗脂胞		
エーテル抽出物		
粗繊維		
灰分(無機物)		
無ちっ素抽出物		
カルシウム		
リン		
マグネシウム		
他の分析物質		

観察 _____

搬入月日 _____ 署名 _____

SURESA-RD-4.

診断部血清検査室

受付月日 _____ 症例 _____

ブルセラ・レプトスピラ、脳炎等の診断による牧場検索

獣医師 _____ 住所 _____

所有者 _____ 出所 _____

感染動物 _____ 感染頭類 _____ 死亡頭数 _____

農場内の飼育頭数： 豚 _____ 羊 _____

牛 _____ 馬 _____

観察した徴候 _____

熱 _____ 食欲 _____ 血色素 _____ 黄疸 _____

貧血 _____ 流産 _____ 衰弱 _____

ワクチン接種 _____

前年の問題点 _____

牧場の管理： 隣接地 _____ 牧場内 _____

もし牧場でならば： 森林 _____ 牧草地 _____

農場の水と感染動物との関係 _____

なにがしの治療を行なったか？ _____ どのような？ _____

他の動物は _____ 野放しの動物群 _____ 頭数 _____

発送材料 _____

必要な検査 _____

SURESA-RD-5.

診断部病理検査室

臨床経過

患者の受領人

日付	時間	検体番号
所有人：		
住所：		電話：
材料送付人：		
住所：		電話：
種類：	品種：	性： 年令： 耳標：
頭数：	重症の頭数：	家畜飼養の目的：
疾病頭類：	発病率%	死亡頭数： 死亡率：
臨床経過： 徴候、最初の徴候発見月日、治療、最後の治療日付、剖検、ワクチン接種、 駆虫、飼料、水、設備		
臨床診断： _____		
材 料： _____		
死亡月日、時間： _____		
検査、研究事項：例えば隔離へは確認 _____		

一次報告の受領：名前、署名、月日

SURESA-RD-6.

病 理 檢 查 室

症 例 係 _____
地方診療所 係 _____
日 付 _____

所 有 者 : _____

住 所 : _____

種 類 _____ 品 種 _____ 性 _____ 年 齡 _____

顯微鏡檢查記錄

診 断 _____

注 釈 _____

搬入月日 _____ 署 名 _____

SURESA-RD-6A.

病 理 検 査 室

剖 検 様 式

症 例 Ⅱ _____

所 有 者 _____

種 類 _____ 品 種 _____ 性 _____ 年 齡 _____

解剖開始時間 _____ 時 _____ 日 _____ 月 _____ 1981 . _____

殺処分の方法 _____

臨床検査：

元気、体温、歩行、視覚、食慾、排泄（糞、尿）

各研究室の検査成績：

病理組織検査	細菌検査室	ウイルス検査室	免疫蛍光検査室
中毒検査室	臨床検査室	寄生検査室	血清検査室

(病検4-2)

検体(殺処分、腐敗、栄養状態、皮膚、肛門、外見、皮下組織、血管、血液、骨格、筋肉、リンパ節)

身長 _____ センチメートル

体重 _____

口腔、咽喉頭、食道

鼻腔、鼻腔の奥の部分、耳腔、気管

胸 腔

腹 腔

泌 尿 器

生 殖 器

中 枢 神 經 系

形 態 学 的 診 断

注 釈

検査室成績の報告

地方診断所	_____	報	告	_____
記載番号	_____	家畜衛生センター症例		_____
連絡事項	_____	日付と時間		_____

地方診断所	_____	報	告	_____
記載番号	_____	家畜衛生センター症例		_____
連絡事項	_____	日付と時間		_____

地方診断所	_____	報	告	_____
記載番号	_____	家畜衛生センター症例		_____
連絡事項	_____	日付と時間		_____

地方診断所	_____	報	告	_____
記載番号	_____	家畜衛生センター症例		_____
連絡事項	_____	日付と時間		_____

地方診断所	_____	報	告	_____
記載番号	_____	家畜衛生センター症例		_____
連絡事項	_____	日付と時間		_____

地方診断所	_____	報	告	_____
記載番号	_____	家畜衛生センター症例		_____
連絡事項	_____	日付と時間		_____

地方診断所	_____	報	告	_____
記載番号	_____	家畜衛生センター症例		_____
連絡事項	_____	日付と時間		_____

診断部免疫蛍光検査室

種ウイルスの作成

作業

プロトコール№: _____

ウイルス株: _____

由来: _____ 継代 № _____ 力価: _____

I 接 種

日付: _____

ドース№: _____ 希釈: _____ 量: _____ 経路: _____

接種動物数: _____ 採取動物数: _____

II ウイルス乳剤

月日: _____ 希釈液: _____ 採取材料: _____ グラム:

ミリリットル: _____

希釈液量: _____ 工程: _____ 最終濃度: _____

III 容 器

容器№: _____ 容量: _____ 保管: _____

月日: _____

無菌対照: _____ プロトコール№: _____

ウイルス力価対照: _____ プロトコール№: _____

IV 凍結乾燥

プロトコール№: _____

月日: _____ 時間: _____ 工程の時間: _____

フラスコ№ _____ 保管: _____

V 確 認

の中に貯蔵 _____

ウイルス: _____

日付: _____

VI 対 照

真 空: _____

日付: _____ プロトコール№: _____

無 菌: _____

日付: _____ プロトコール№: _____

証 明: _____

日付: _____ プロトコール№: _____

ウイルス力価: _____

日付: _____ プロトコール№: _____

ウイルス力価: _____

日付: _____ プロトコール№: _____

ウイルス力価: _____

日付: _____ プロトコール№: _____

診断部免疫蛍光検査室

接種経路 _____ 量 _____

経過日数

症例 No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	
接種月日																													

症例 No																													
接種月日																													

症例 No																													
接種月日																													

SURESA-RD-10.

診 断 部 免 疫 蛍 光 室

検 査 _____ 症 _____
 接種材料 _____ 数 量 _____ 接種経路 _____
 動物種類 _____ 開始月日 _____
 終了月日 _____

経過日数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
月 日																												

経過日数																												
月 日																												

経過日数																												
月 日																												

SURESA-RD-11A.

診断部免疫蛍光検査室

狂犬病材料

症例 № _____
日付 _____

所有者 _____
住所 _____ 電話 _____
種類 _____ 品種 _____ 性 _____ 年齢 _____
材料名 _____

動物の確認 _____
ワクチン接種は? _____ 回数と日付 _____
定期接種か? _____
ワクチンの名称 _____ 製造所名 _____
死亡状況? _____
? _____

かまれた人の数 _____
発病中とその1週間前の間に接触した人の数 _____
接触あるいはさらされた動物の数 _____
臨床症状を簡単明瞭に述べなさい。 _____

今回の疫病以前の他の重要な臨床症状の有無 _____

仮診断 _____
〜に引継ぎ _____
〜を通して〜に報告 _____ A: _____
時間 _____ 日付: _____

所見: _____

受領月日: _____ 署名 _____

SURESA-RD-12.

診断部免疫蛍光検査室

検 査 :

プロトコール№ :

材 料 :

試験動物 :

体 温

経過日数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
日 付																												

成 績

診断部（薬品毒物検査室）

受領日付

検査室数

検査報告日付

検査材料		
処置		
検査期間		
分類		
大きさ		
記録		
流血		
数		
RESIEMBRA		
発芽状態		
芽胞の所在		
MOTILIDAD		
好気性菌検査		
嫌気性菌検査		
カタラーゼ		
オキシダーゼ		
グルコース		
温度検査		
CREC. MC. C		
食塩		
チトラート		
アラゼノース		
デュルシトル		
イノシット		
ラクトース		
マルトース		
マントール		
ラムノーサ		
ソルビトール		
シユークロース		
キシロール		
O N P G		
M R V P		
AESFULINA		
LECHET		
ニトラート		
インドール		
ゲラチン		
尿		
尿		
H ₂ S		
L.D		
その他		

SURESA-RD-14.

診断部免疫蛍光検査室

狂犬病生物学的診断検査の成績の報告

日 付： _____ 部： _____

検査 №	SURESA №	由 来	成 績
_____	_____	_____	_____
_____	_____	_____	_____
_____	_____	_____	_____
_____	_____	_____	_____

診断部家禽病理検査室

疫 病 _____ 所 有 者 _____

接 種 _____ 材 料 _____

胎児日齢 _____ 日 付 _____ SURESA 症例 № _____

日 数 _____ 検 査 症 例 № _____

胎 児 №									

成 績 _____

6. 家畜衛生センター図書目録

RELACION DE LIBROS EN EXISTENCIA EN LA-
BIBLIOTECA (SUBDIRECCION DE REFEREN -
CIA EN SALUD ANIMAL.) (SURESA).

- ZOONOSES PAN AMERICAN HEALTH VOL. I NO. 3,4 SEPT. DEC. 1978
ORGANIZATION PANAMERICAN ZOONOSES CENTER.
- ZOOPECNIA GENERAL (PROF. DR. H. VOGEL).
- ZOOPECNIA E INDUSTRIA GANADERA. (DUANE ACKER).
- VADEMECUM DE PRODUCTOS VETERINARIOS (MVZ. EDUARDO LELO DE
LARREA).
- VETERINARIA MEXICO VOL. 7 No. 3 (U.N.A.M.)
- VETERINARIA MEXICO VOL. 8 No. 1 (U.N.A.M.)
- VETERINARIA MEXICO VOL. 9 No. 4 . (U.N.A.M.)
- VETERINARIA MEXICO VOL. X NO. 1 (U.N.A.M.)
- VETERINARIA MEXICO VOL. X NO. 2 (U.N.A.M.)
- VETERINARY PARASITOLOGY (S/A.)
- TRATADO DE CUNICULTURA MODERNA Y RENTABLE EN MEXICO. (BENI-
TO RODRIGUEZ).
- TECNICA MICROGRAFICA Y ORGANICA MICROSCOPICA (SAMPEDRO).
- TECNICAS QUIRURGICAS EN EL PERRO Y EL GATO. (NOEL ORMROD) .
- THE VETERINARY RECORD VOL. 104 NOS. (14,15,16,17,18,19,20,21,
22, 23, 25, y 26). (JOURNAL OF THE BRITISH VETERINARY ASSOCIA-
TION).
- TECNOLOGIA PRACTICA DE LA CARNE. (H. WEINLING).
- TECNICAS DE MUESIREO (WILLIAM G. COCHRAN).
- THE VETERINARY RECORD VOL. 106 NO. 1 (J.B.V.A.).
- T.V. VETERINARIA PARTO DE LA VACA Y MANEJO DEL TERNERO (JOHN -
CHEFFINGTON).
- SENIDAD Y ALICAMIENTOS PARA ANIMALES (D. SAJUS BURY).
- SINGER AND SCHUSTER'S INTERNATIONAL DICTIONARY ENGLISH-SPA-
NISH. (J. A. SCHUTZ).

SOME BRITISH MITES OF ECONOMIC IMPORTANCE. (G. OWEN -
EVAUS- E. ZOWNING.)

CATALOGO 1971 (SIGMA DE MEXICO , S.A.).

CIENCIA VETERINARIA TOMO 2 (R. FLORES CRESPO BLOIS).

CLOSTRIDIOS PATOGENOS. (MAX ETERNE-IRENE BATTY).

CRIA DEL CONEJO DOMESTICO (J.S. TEMPLETON)

CRIA MODERNA DE LAS ABEJAS. (MELCHOR BIRI J.M.ALEMANY-
ALBERT.)

CURSO DE REDACCION DINAMICA. (HILDA BASURTO).

BLOOD THE JOURNAL OF THE AMERICAN SOCIETY OF HEMATOLOGY
VOL. 54 Nos. 1, 2, 3, 4, 5, 6, JULY -DECEMBER 1979. (GUNNE I. ---
STRATTON).

BLOOD THE JOURNAL OF THE AMERICAN SOCIETY OF HEMATOLOGY
VOL. 53 Nos. 1, 2, 3, 4, 5, 6, (MARCH - JUNE 1979). (GUNNE I. ---
STRATTON.) .

BRITISH JOURNAL OF HEMATOLOGY VOL. 43, No. 1, 2, SEPT. OCT. -
1979 (S.M. LEWIS).

BRITISH JOURNAL OF HEMATOLOGY VOL. 42 No. 1, 2, 3, 4, (S.M. -
LEWIS).

BRITISH JOURNAL OF HEMATOLOGY VOL. 41 No. 1, 2, 3, 4, JANUARY
APRIL 1979. (S.M.) LEWIS.)

AMERICAN JOURNAL OF VETERINARY RESEARCH ON THE AMERICAN
VETERINARY MEDICAL ASSOCIATION. VOL. 39 No. 3, 5, 6, 9, 12, 7, -
EMERSON D. COLBY HAUGER N.H.)

AMERICAN JOURNAL OF VETERINARY RESEARCH OF THE AMERICAN-
VETERINARY ASSOCIATION VOL. 38 No. 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, -
12, 11,) EMERSON D. COLBY HAUGER N.H.)

ANUARIO DE SANIDAD ANIMAL 1975. (FAO - WHO - OIE).

ANESTESIA VETERINARIA (WILLIAM V. LUMB , E. WYNN JONES,).

ANALISIS ESTADISTICO 2a. EDIC. (YA-LUN -CHOU).

AMERICAN JOURNAL OF VETERINARY RESEARCH OF THE AMERICAN -
VETERINARY MEDICAL ASSOCIATION VOL. 37 No. 9. SEPT. (DAVID
ANDERSON).

AGENCIA GENERAL DE SINALOA MEMORIA (S/A .)

HAND BOOK OF EXPERIMENTAL IMMUNOLOGY. THIRD EDITION.
(D.M. WEIR). VOL. 1

HAND BOOK EXPERIMENTAL IMMUNOLOGY VOL. 2 (THIRD EDI-
TION) (D.M. WEIR):

TECNICAS FUNDAMENTALES DE LA CIRUGIA VETERINARIA(KNECHT
WELSER).

AMERICAN JOURNAL OF VETERINARY RESEARCH OF THE AMERICAN-
VETERINARY MEDICAL ASSOCIATION (VOL. 41 Nos. 1,2,3,4,5,6,-
7,8, (EMERSON D. COLBY , HAUOVER).

CLINICA DE LAS ENFERMEDADES DEL PERRO TOMO I (HORST-JOA-
CHIM CHRISTOPH)

CLINICA DE LAS ENFERMEDADES DEL PERRO TOMO II (HORST--
JOACHIM CHRISTOPH).

ACTUALIDAD VETERINARIA VOL. 2 NO(2 , 9, 10. S/A.)

TECNICAS DE DIRECCION DE PERSONAL (RAMON DE LUCAS ORTU-
ETA)

TERAPEUTICA PRACTICA CLINICA EN PEQUEÑOS ANIMALES.(ROBERT
W. KERK).

TRATADO DE MICROBIOLOGIA (B.D. DAVIS R. DULBECCO).

VACUNAS Y VACUNACION DE LOS ANIMALES DOMESTICOS J.FECH-
NER).

THE VETERINARY VOL.105 NOS. 2,3,4,5,6,8,9,10,11,12,13,14,-
15,16,17,18, 19,20, y 24) (JOURNAL OF THE VETERINARY ASSO--
CIATION)

VETERINARIA PRACTICA (OSVALDO A. ECKELL).

THE VETERINARY BULLETIN VOL. 49 Nos. 1,2,3,4,6,5,7,8,9,10,-
11, 12, (C.A.B.).

LA RABIA TECNICAS DE LABORATORIO (7 TOMOS) M.N. KAPLAN--
H. POTROWSKI.

INDUSTRIAS LACTEAS. (J.M. DE SORCA)

DLAGNOSTIC METHODS IN CLINICAL VIROLOGY

DIRECCION Y ADMINISTRACION DE GRANJAS.(RAYNOLD R.BENEKE)

DIAGNOSIS AND EPIZOOTIOLOGY OF CLASSICAL SWINE FEVER.

DIAGNOSTIC MYCOBACTERIOLOGY LABORATORY (FISCAL YEARS 1971 AND 1972.) U.S.A. DEPARTMENT OF AGRICULTURE ANIMAL AND - PLANT HEALTH).

DICCIONARIO DE SINONIMOS E IDIAS AFINES. PROF. JULIO DE LA CANAL

DICCIONARIO ESPAÑOL DE SINONIMOS Y ANTONIMOS . F.C. DE RO - BLES.

DICCIONARIO WEBSTERS . JOHN GAGE ALLEE PH.D..

DICCIONARIO DE SINONIMOS S/A.

DICTIONNAIRE ESPAGNOL FRANCAIS, FRANCAIS ESPAGNOL (SOPENA) .

DIAGNOSTICO CLINICO Y TRATAMIENTO CLINICO 1979. MARCUS A. KRUPP MILTON J. CHATTON.

DIAGNOSTICO CLINICO VETERINARIO (W.R. KELLY).

GUIA PARA NECROPSIA DE RUMIANTES DOMESTICOS (H. WINTER).

GINECOLOGIA Y OBSTETRICIA VETERINARIA. (GIUSEPPE VATTI).

GENETIC ASPECTS OF HOST-PARASITE RELATIONSHIPS VOL. 14 FIRST PUBLISHED 1976 ANGELA E.R. TAYLOR & R. MULLER.

FARMACOLOGIA Y TERAPEUTICA VETERINARIA (W. DAYKIN).

FARMACOLOGIA Y TOXICOLOGIA VETERINARIA (M. FRIMMER).

FIDEICOMISO CAMPAÑA NACIONAL CONTRA LA GARRAPATA (S.A.R.H.) - REVISTA 1 (S.A.R.H.).

FISIOLOGIA AVIAR (P.D. SIURKIE).

FISIOLOGIA DE LOS ANIMALES DOMESTICOS (DUKES SWENSON) TOMO I.

FISIOLOGIA DE LOS ANIMALES DOMESTICOS (DUKES SWENSON) TOMO - II.

FORRAJES (HUGHES HEATH METOLF).

FUNDAMENTOS DE QUIMICA . METODOS DE LABORATORIO QUIMICO - (BRESCIA ARENTS MEISLICHTURK).

EQUIPMENT LIST FOR TECHNICAL COOPERATION PROJET ON ANIMAL --- HEALTH IMPROVEMENT PROGRAME IN INDONESIA MARCH 1979 NO. 48.

REPORT ON THE RETAIL SALE OF CERTAIN VETERINARY MEDICINES-
TO FARMERS 1973. S/A.

ANIMAL CELL CULTURE METHODS FIRST EDITION 1970 . C.D. ----
KASLEY JOHN W. KAY.

APICULTURE IN TROPICAL CLIMATES INTERNATIONAL BEE RESEARCH
ASSOCIATION LONDON 1976. EVA CRAIG.

AN INTRODUCTION TO METABOLIC PATHWAYS FIRST PUBLISHED 1970
S. DAGLEY AND DONALD E. NICHOLSON.

AMERICAN ASSOCIATION OF VETERINARY LABORATORY DIAGNOSTI---
CIANS 23 rd. ANNUAL MEETING NOVEMBER 3-4 1980. S/A.

AUSTRALIAN VETERINARY JOURNAL VOLUME 52 NO. 4 APRIL 1976.
S/A.

BRITISH JOURNAL OF HAEMATOLOGY VOL. 43 NO. 4 DEC. 1979. S/A

BRITISH JOURNAL OF HAEMATOLOGY VOL. 43 NO. 3 NOVEMBER 1979.
S/A.

S.K. LEWIS (BRITISH JOURNAL OF HAEMATOLOGY VOL. 41 1,2,3,
4, DE 1979.

BRITISH JOURNAL OF HAEMATOLOGY VOL. 42 NOS. 1,2,3,4, S.K. -
LEWIS.

BRITISH JOURNAL OF HAEMATOLOGY VOL. 43 NO. 1,2, SEPTEMBER-
1979. S.K. LEWIS.

BLOOD THE JOURNAL OF THE AMERICAN SOCIETY OF HAEMATOLOGY --
VOL. 53 NOS. 1,2,3,4,5,6, 1979. GINE I. STRATTON.

BLOOD THE JOURNAL OF THE AMERICAN SOCIETY OF HAEMATOLOGY --
VOL. 54 NOS. 1,2,3,4,5,6, JULY DECEMBER 79. GINE I. STRA-
TTON.

BLUSTONGUE BIBLIOGRAPHY JULY 1979 S/A.

BOLE DE HEPATITIS HEPATICA FOVINA EN NICARAGUA SEPT. 24 -
2 1980 (ARTICULO). DR. JOSE PEREZ R. MESS. EL DEPIO. -
DE SAN LADAO A.I. DE SAN LADAO.

CHARACTERIZATION OF HERPESVIRUSES ISOLATED FROM LACTATING
DAIRY COWS WITH MAMMARY POSTMILKING MAMMILLITIS OCT. 1977.

CELLULAR IMMUNOLOGY VOL. 2 HANDBOOK OF EXPERIMENTAL IMMUNO-
LOGY THIRD EDITION 1978 REPRINTED 1979. D.M. WEIR.